

「裸婚時代」の言葉

——第一集——

渡部 洋 柴田みゆき

早川智美 清水由香里

はじめに

- 1 解説
- 2 裸婚時代第一集（台詞）
- 3 語詞注解
- 4 日本語訳
- 5 索引
- 6 参考資料

はじめに

拙論は「裸婚時代^①」と題する中国のテレビドラマの第一集に、できるだけ詳細な注解をほどこし、聞き取った中国語とその日本語訳とともに真宗総合研究所の紀要に掲載し、ひろく中国語の研究者に提供するものである。ドラマ名の「裸婚時代」は日本語に訳すと“地味婚”である。このドラマは主人公劉易陽と童佳倩が結婚し離婚する過程の中でお互い成長していく姿を描いている。

以下順を追って、各篇の内容を説明する。

“解説”では主に「裸婚時代」を取り上げた理由、ストーリー、主な登場人物の名称と特徴を紹介した。

次は「裸婚時代」の台詞である。各台詞に番号を付け、後の日本語訳と対応させてある。下線の引いてある語句は場面の番号（01～13）と台詞の番号から“語詞注解”でその語句を容易に捜しだすことができる。また、各場面での様子を知った方が台詞を理解しやすいところには日本語で（ ）にその様子を書き入れてある。

次の“語詞注解”では当該語句がいつの時代から使われるようになったかに焦点を当てた。また、北京語であると思う語句には●をその語句の前に置き、そうでない語句には○を置いた。特に古い北京語については太田辰夫氏の玉論

「北京語の文法特點」で取りあげられた北京語に【特點】を付した^②。更に北京語で書かれた清末の小説『小額』と「裸婚時代」全集（1集～30集）のデータベース化をほぼ完成させているので、この二つの資料からできるだけ多くの例文をこの“語詞注解”に使うようにした。以上のようにできるだけの事をしたつもりであるが、残念ながら浅学菲才の我々が作成した“語詞注解”はまだまだ不十分な点が多く、引玉之磚として世の指教を仰ぐことにする。

次の“日本語訳”は編者である我々の国語力の限界もあり、あくまでも試訳に過ぎず、参考程度のものである。

最後の“索引”は「裸婚時代」の中の語詞を検索するためのものであるが、「語詞注解」に収められている語句をアルファベット順に並べたものである。

注

- ①中国で2011年に放映され高視聴率をとったテレビドラマである。総合監督は滕华濤、監督は曹盾である。
- ②太田辰夫氏は「北京語の文法特點」（『久重福三郎先生坂本一郎先生還暦記念中国研究』1964）で南京官話と比較対照をして北京語の語彙やその用法について詳細にのべられている。また、上記の論文以外にも北京語に関係する論文を数多く残されているが、「紅樓夢の言語について」（明清文学言語研究会会報5、1964.11）、「『離婚』の語法と語彙」（『神戸外大論叢』25巻1号、1974.6）、「『小額』の語法と語彙」（『神戸市外大論叢』21巻3号、23巻3号、1970、1972）等の論文は大変参考になる。
- ③『小額』は清末の満州旗人の松齡の作で光緒34年（1908年）に刊行された。社会小説という副題をつけ1900年に起こった庚子事変前の北京の暗黒面を描いている。

1 解説

1.1 「裸婚時代」は唐欣恬の小説『裸婚—80后的新結婚時代』をドラマ化したものである。このドラマが2011年に中国で放送され、かなり高い視聴率であったことも中国人留学生から聞いている。今回、主に現代の北京語及び標準語化された北京語を考察するためにこのドラマを研究対象とした。その理由は3つある。1つはドラマに登場する人物のほとんどが北京人という設定である。2つ目は2010年前後の北京を舞台にしたもので登場人物は主に一般庶民である。3つ目は登場人物が中国建国前に生まれた者、文革前に生まれた者、90年代に

生まれた者とほぼ3つの世代に分けられる。以上の事からこのドラマの中の登場人物の話す言葉を詳細に考察すれば、現代北京語の実態について知ることができ、今後の北京語研究の資料に成り得ると考えた。

尚、台詞は13の場面に分け、台詞ごとに順番を表す番号を付している。また、台詞にある下線は後の語詞注解に並べている語句であることを示す。

1.2 ストーリー

主人公の劉易陽是北京の下町に住む若者で広告代理店に勤めている。彼には高校時代から付き合っている彼女がいる。彼女の名前は童佳倩と言い、両親が公務員で裕福な家庭に育ったお嬢様である。大学卒業後は車のディーラーに勤めている。劉易陽は上海出張の前に彼女の勤め先を訪ね、楽しく会話を交わす。彼女からスマートフォンのプレゼントまでもらい易陽は有頂天になる。ところが易陽が上海に発ったその日の夜、佳倩は彼と付き合っていることを母親に知られてしまう。気まづくなって次の日会社を休んだ佳倩は易陽の宿泊先のホテルへ行き、これからどうするか話し合う。しかし、結局良い考えは浮かばずそのまま上海で二人は楽しい時を過ごして終わる。しかし、ある日の朝、佳倩は妊娠検査薬で自分が妊娠していることを知る。その後、佳倩はすぐ易陽に相談する。易陽は父親になったことに感激し、佳倩と結婚することを決心する。易陽と佳倩は先ず易陽の家族に結婚の話をするが、結婚後易陽の家族と別居することは反対される。その後、易陽と佳倩はこれまで交際することを反対していた佳倩の親のところへ結婚の許しを認めてもらいに行く。ただ、悪いことにその日は佳倩の母田淑雲が家で佳倩のための見合いを準備していた。相手は佳倩の幼馴染で田淑雲の親友老魯（正確には“魯さん”であるが、便宜上この名称を使う）の1人息子である。この息子は公的な機関に勤め、背がすらっと高くかっこよく、田淑雲お気に入りの青年であった。佳倩の家では佳倩の両親、老魯の親子が今か今かと佳倩が帰ってくるのを待っている。そして帰って来て田淑雲がドアを開けると佳倩と苦笑いしている易陽が立っている。田淑雲はその場で二人が交際していたことを知らされ、慌てて易陽に今日だけは既婚者でたまたま荷物を届けに来た近所の人に扮してほしいと懇願する。易陽は田淑雲が窮地に立っていることを知り彼女の言うがままに近所の人になりきろうとする。しかし、佳倩は母の勝手に用意したお見合いに我慢がならず、老魯親子の目の前

で易陽が交際相手に妊娠したことをばらしてしまう。老魯親子は怒って帰ってしまい、佳倩の母田淑雲は面子をつぶされ激怒する。

1.3 主な登場人物の名称とその特徴

易陽：劉易陽を指し、日本語訳では《易陽》のことである。この物語の主人公で一人っ子の青年。広告会社に勤めている。有能で上司からも期待されている。彼女である童佳倩と後に結婚する。

佳倩：童佳倩を指す。裕福な家庭の一人っ子。車のディーラーに務めている。初恋の劉易陽と付き合い、後に結婚し夫易陽の家族と同居する。

童爸：童佳倩の父親を指し、日本語訳では《童父》のことである。名前は童建業。共産党員で機関幹部。

童妈：童佳倩の母親を指し、日本語訳では《童母》のことである。名前は田淑雲。共産党員で機関幹部。

刘爸：劉易陽の父親を指し、日本語訳では《劉父》のことである。名前は劉明。工場で働いていたが、早期に退職し今は漢方薬に凝っている。

刘妈：劉易陽の母親を指し、日本語訳では《劉母》のことである。名前は呉紅霞。節約を第一に考える主婦。

刘奶：劉易陽の祖母を指し、日本語訳では《劉祖》のことである。将来曾孫と一緒に暮らすことを夢みている。

老魯：童佳倩の母親田淑雲の同僚で機関幹部。

杜毅：老魯の息子。大学院を出て公的な設計事務所に勤めている。佳倩とは幼馴染である。

2 「裸婚時代」第一集の台詞

01

(劉易陽が童佳倩の会社の前で彼女が出てくるのを待っている)

1 佳倩：你怎么那么快就看见我了吗？

2 易陽：这叫心有灵犀、是吧？

3 佳倩：哎、你怎么又出差呀？

4 易陽：没办法。我也是刚得到通知。

5 佳倩：那、你要去几天呢？

6 易阳：一个星期。

7 佳倩：这么久啊。

8 易阳：我也不想去。

9 佳倩：你不许跟小妖精说话。你不许看他们。不许留电话。听到了没有？

10 易阳：听到了。

11 佳倩：好好儿吃饭啊。

12 易阳：好了。亲一个。

13 佳倩：衣服带够了没有啊？

14 易阳：带够了。大老爷们儿有什么讲究的？

15 佳倩：你一星期就这么一小箱子啊。你还不脏死了？

16 易阳：不脏。来、预备。

(易陽が携帯で録画の用意をする)

17 佳倩：开始。拍好。看点儿啊。不许跟小妖精说话。不许看他们。不许留手机电话。还有。要好好吃饭。记住了吗？

18 佳倩·易阳：唉...。(二人が口づけをする)

19 易阳：好。我就是喜欢你这絮絮叨叨的样子。像个小妇女。

20 佳倩：谁是絮絮叨叨的了？ 这不还为你好吗？

21 易阳：少来。

22 佳倩：欸、背一遍。联络守则。

23 易阳：哎呀。不背了。打电话不能超过三声接。要是在工作、必须以彩信形式告知。回短信不能超过一分钟。三十个字以上的、以字数为准一个字一秒。

24 佳倩：能遵守吗？

25 易阳：不出差我天天不也这么做吗？

26 佳倩：顶嘴。

27 易阳：谁顶嘴？ 我哪有这胆量啊？

28 佳倩：过来。

29 易阳：啊。

30 佳倩：把手先伸出来。

31 易阳：有福利啊。

(易陽が手を出して佳倩がスマートフォンを易陽の手のひらに置く)

32佳倩：你的。

33易阳：送我的？（驚いた様子で）娘子啊。你对我这么好。小生无以回报。唯有以身相许。

34佳倩：哎呀，既然这么着的话、那我就勉强收了你吧。

02

（易陽の母が外出から戻り慌てて家に入る）

1 刘妈：妈。我告诉你个天大的喜讯啊。咱家快成百万富翁了。听说咱们洪家园小区要拆迁了。一平米给补四万多块钱呢。

2 刘奶：有那么多吗。

3 刘妈：人家都这么说呀。

4 刘爸：这、这消息靠谱吗。

5 刘妈：对面马路都拆了。楼底下老周说的三年之内咱们这个洪家园小区准拆完。

6 刘爸：可咱这间平房才十多平啊。这一平四万多、离百万差老鼻子了。

7 刘奶：给四万你就要四万啊。你也太实心眼了。赶明儿我收拾收拾 上洪家园住着去了。少于这个六万。拆了我这把老骨头也不搬。

8 刘爸：哎、妈 还是您有远见。我呀、跟您一起去。

9 刘妈：万一断电断水怎么办哪。

10 刘奶：能断多长时间、一辈子多长时间。将来咱们阳阳结婚就指这个、多坚持一天就能多个...卫生间。

11 刘爸：没准儿还能是间卧室、向阳的更好了。

12 刘奶：那就太好了。我呀、在阳台上养好多好多好的花。将来抱着我的曾孙子、不出门就能逛花园了。

13 刘爸：你看、老太太美的。

14 刘妈：躲开躲开躲开、过去、快点。弄菜了。

15 刘奶：真是个大好事、真是个好消息啊。

03

（佳倩が自分の部屋で易陽に送る動画を携帯電話で撮っている）

1 佳倩：老公、工作忙完了吗？ 上海美女多吧。我告诉你啊。闭上你的眼睛、不然我把你的眼珠子抠出来。

(突然、佳倩の母が部屋に入ってくる)

2 佳倩：妈、你干吗呀？ 你怎么不敲个门就进来了。吓死我了。

3 童妈：我又不是你爸、我敲什么呀？

4 佳倩：不是。凭什么人童建业同志敲门、您就不敲啊？

5 童妈：我是你妈、我就不敲就不敲。怎么着？

6 佳倩：什么歪理啊？

7 童妈：我问你啊。你跟刘易阳分还是没分哪？

8 佳倩：分了。

9 童妈：什么时候分的？

10 佳倩：早就分了。

11 童妈：早是什么时候啊？

12 佳倩：不是。我上学的时候吧、属于早恋、您要管我的话我也认了。关键我现在都那么大了。您再管我不合适吧。我这有分寸的。

13 童妈：你有什么分寸哪？ 你要有分寸、我就不管你了。你刚才给谁发信息呢？

14 佳倩：同事啊。

15 童妈：那你、我一进来你躲什么呀？

16 佳倩：没躲呀、我怎么躲了。

17 童妈：你要是同事的话、你让我看看。这样才能证明、你真的是给你同事发信息。

18 佳倩：不是。那凭什么呀？

19 童妈：什么叫凭什么呀？

20 佳倩：你一共产党员、你不能看人隐私吧。

21 童妈：什么叫隐私？ 只有那个关系、那才叫隐私。

22 佳倩：什么关系呀？

23 童妈：同事之间发信息叫什么隐私啊？ 有什么不能看的。我跟你讲童佳倩、你要是心里没鬼、你就让我看、有鬼你别让我看。没鬼你就别…

(お母さんが佳倩の携帯電話を取り上げようとする)

24 佳倩：不是。不行不行、你干吗呀？

(お父さんが佳倩の部屋に入ってくる)

25 童爸：老田、来、快快快！ 来、快快快！

26童妈：怎么了？

27童爸：教育频道、太逗了。

28佳倩：爸、你看看。

29童爸：走走。教育频道太…

30童妈：有意思吗？ 你有意思吗？

31童爸：怎么了？

32童妈：看什么看呢？ 你以为我不知道那一套啊？ 每次我一教育她的时候、你快来看、快来看。看什么呀？ 我问你呀。你先来看看你的好女儿。你先问到底跟刘易阳分是没分。

33童爸：你操这心干吗呀？ 咱们佳倩都长大了。想找什么样的心里边清楚。鞋合不合适只有脚知道。走走。

34童妈：知道个鬼。我说童建业你也奇怪了。你原来你可不是这态度。原来你、你是可舍不得把女儿嫁出去了。你记得你说什么来着？ 我一辈子我都希望我女儿就在我身边、我不放心呢。我觉得哪个男人都没有我对她那么好。你这劲哪儿去了？ 你这不放心劲儿都哪儿去了？ 你现在想把她赶紧推出去、是不是啊。

35童爸：没有没有、这劲儿还在哪。

36童妈：在哪儿啊？

37童爸：我跟你说、我觉得刘易阳这孩子挺好、不错。

38童妈：哪儿好、哪儿好啊？

39童爸：哪儿都挺好的。我觉得。

40童妈：哪儿好啊？ 你以为我田淑云女儿嫁不出去了、逮上一个就他了。你比较过吗？

41童爸：我跟谁比呀？ 我、你说你这莫名其妙不是吗？

42童妈：还是的呀。你干什么你不得货比三家啊？

43佳倩：不是。妈、你说什么呢？ 你。

44童爸：真是的。把孩子当什么了？

45童妈：你说是不是这么回事啊？ 你刚刚说是个毕业了。这前面的路多宽哪。这多少人呢、等着你去挑啊。是吧？ 人外有人、天外有天。这就高中就是、就随便像玩闹似的、就他了呀。你买东西真是得货比三家。我这是话丑理端、你说是不是？ 你说你要心急、你傻。一进个商场把东西

买了。完了。砸手里了。你在后边再看什么、再好再好没用了呀。我跟你
说、那还不像买东西。买东西还可以、不好、扔了、不要了。没什么
了不起、就是个钱嘛。

46童爸：这都哪儿跟哪儿啊？

47佳倩：妈、爸、我困了。

48童妈：婚姻它不是买东西。

（お父さんがお母さんを部屋から連れ出そうとする）

49童爸：好好、咱们先…

50佳倩：爸、你快给我妈弄出去。

51童妈：我还没问清楚。到底她是给谁发信息的？

52童爸：你看眼睛都红了。你累了。

53佳倩：我要睡觉。

54童爸：快走快走。走走走。

55童妈：她要光明正大。她为什么不让人家看呀？

（お父さんとお母さんが部屋から出て行く）

56佳倩：把门关上！

（扉の向こうでお父さんの声がある）

57童爸：你累不累呀？ 我都累了。

（二人が部屋を出て行くのを確認してから、佳倩は同僚に電話をする）

58佳倩：喂、莉莉。你帮我请个假行不行啊？ 不、我家里有事。行、谢谢你啊。

04

（佳倩がタクシーから降りる）

1 佳倩：谢谢啊、师傅。

（佳倩が易陽の泊まるホテルにはいり携帯で易陽に電話する）

2 易阳：喂。

3 佳倩：老公、干吗呢？

4 易阳：我潇洒着呢。一堆美女陪着我呢。

5 佳倩：真的？ 我不信。

6 易阳：不信？ 不信你过来看看。你等会儿啊。别挂啊。

（易陽がドアを開けると佳倩が立っている）

7 佳倩：美女呢？ 让我瞧瞧。

（易陽は佳倩を部屋に引っ張り込む）

（ホテルのベッドの中で易陽と佳倩が話す）

8 易陽：咱们这次的地下工作又败露了。八年了！ 是块冰都被我刘易阳融化了。
你妈怎么这么顽固啊。

9 佳倩：不是、你想想办法。

10 易陽：我能有什么办法呀？

11 佳倩：你想想啊。

12 易陽：你爱我吗？

（佳倩が黙ってうなづく）

13 易陽：我也爱你。咱俩一不做二不休。直接把婚结了。

14 佳倩：不行。我妈不同意啊。

15 易陽：不是你妈不同意、咱俩还不结婚了。

16 佳倩：那总不能私奔吧。

17 易陽：咱俩私哪门子奔呢？ 不以结婚为目的的谈恋爱都叫耍流氓。

18 佳倩：什么呀？

19 易陽：你当年爱看的那个电视剧、叫什么来着。

20 佳倩：奋斗。

21 易陽：对呀。人家里头那一男一女、人家家里也不同意。怎么结的？

22 佳倩：不是。人家那是拍电视。

23 易陽：拍电视怎么了？

24 佳倩：拍电视跟生活怎么能一样？ 因为我妈她、不是。

25 易陽：怎么不一样？ 它拍电视不就是给我们老百姓看的吗？ 我们老百姓就得按照…。

26 佳倩：（大きな声で叫ぶ）不行、不行、不行。

27 易陽：怎么？ 那你说怎么办？

（佳倩が易陽の顔を見つめる）

28 佳倩：我饿了。

（掛布団をかぶり易陽は佳倩を抱きしめる）

05

(佳倩の母の職場。帰宅しようとする同僚の老魯と出会う)

- 1 童妈：哟、怎么这么早就走啊。
- 2 老鲁：我有点儿事、这不是我儿子来接我早走一会儿。杜毅、这田阿姨。
- 3 杜毅：田阿姨。
- 4 童妈：杜毅啊。哎呀、长这么高了。哎呀、真是一表人材呀。这走大街上阿姨绝对不认识了。
- 5 老鲁：可不是、人家是刚毕业、工作刚落实。
- 6 童妈：分哪儿了？
- 7 老鲁：啊、那个叫什么设计院。就是那个什么春大街来着那个。
- 8 杜毅：春风。
- 9 老鲁：春风路那个。
- 10 童妈：那可是好单位、它一般都进不去啊。你们俩没少使劲儿吧、你跟老杜。
- 11 老鲁：还不都是为了孩子。
- 12 童妈：那事啊。这回你妈算进了保险箱了。杜毅啊、我记得你好像比我们佳倩大两岁是吧。
- 13 老鲁：对、是、大两岁。对了、你家佳倩小时候还穿过我们杜毅衣服呢。
- 14 童妈：对啊、对啊。
- 15 杜毅：妈。
- 16 童妈：杜毅啊、有女朋友没有啊？
- 17 老鲁：没有。
- 18 杜毅：还没有。
- 19 童妈：啊。真好啊。(品定めするように杜毅を見る)
- 20 老鲁：这样我们回头聊、我还有事。我走了啊。
- 21 童妈：对对对。先走先走。你们先忙。
- 22 杜毅：田阿姨再见。
- 23 老鲁：走了啊。
- 24 童妈：再、再见。

06

(童家のリビングで佳倩の両親がソファーに座り、お母さんが姉と電話で話している)

1 童妈：姐啊、这都多长时间了呀？你一直也没信儿。可不着急了吗？行行、知道了知道了。谢谢啊。那也、那谢谢谢谢。

（お母さんが電話を切る）

2 童妈：我知道。我姐她根本就不会上心。让她给佳倩介绍对象都多长时间了呀？一问就支支吾吾的。我跟你讲啊。她这人就是自私、根本就没想帮忙。她一辈子都不如我。好不容易她找个女婿稍比咱强点。所以现在她怕给咱们介绍好了、佳倩把她压下去。她就这个想法。我跟你讲、我一眼就看出来了。

3 童爸：是吗？

（お母さんがはっと思い出す）

4 童妈：我今天看见老鲁了。

5 童爸：不是。你们俩不就在一层办公天天见面嘛？

6 童妈：看见老鲁她儿子了。

7 童爸：她儿子怎么了？

8 童妈：叫杜毅。在研究、研究生毕业。现在上了一研究所上班。那个单位我知道、好着呢。那福利可不是一般的好。挣的一个月小一万块钱。

9 童爸：好。

10 童妈：而且那孩子吧、长得又特帅一表人才、一米八几个大个儿。这看得我呀。我跟你讲、有些事就这样、踏破铁鞋无觅处、柳暗花明又一树。

11 童爸：这是哪儿跟哪儿啊？

12 童妈：都你不信。

13 童爸：我看你简直是魔怔了你。

14 童妈：我跟你讲、有些事就是缘分。你不信、这不行。你说、她为什么、那她今天她儿子就去单位了呢？为什么就偏偏让我给碰上了呢？我为什么那会儿就偏偏要下楼去送材料、是吧？你说有些事情就是老天爷安排好的。

15 童爸：就是、就是就是。

16 童妈：你、你挡都挡不住。

17 童爸：没错。渴了。喝点水。

18 童妈：真是缘分哪。

07

(佳倩の家で両親が朝ごはんの支度をしている)

- 1 童妈：哎、我跟你说话呀。你把那剩那俩肉包子给她留着啊。你别吃啊。
2 童爸：我知道了。
3 童妈：怎么了？ 佳倩。是不是没有纸巾了？ 我告诉你啊、在那个水池下面、那个柜门里头有啊。

(化粧室では佳倩は検査器を見て妊娠したことを知り動揺する)

- 4 佳倩：知道了。

08

- 1 易阳：你的意思是说我刘易阳当爸爸了。
2 佳倩：小声点。
3 易阳：为什么要小声啊。
4 佳倩：丢人现眼。
5 易阳：什么叫丢人现眼呀。这么值得普天同庆的事、我一定要说出来。服务员、帮我拿一啤酒。
6 服务员：还加什么菜吗？
7 易阳：来一比萨、全肉的。
8 服务员：好的、请稍等。
9 易阳：嘿、你怎么不高兴啊。
10 佳倩：我高兴什么呀我。
11 易阳：为什么不高兴啊。这件事充分地说明、我刘易阳年富力强、百步穿杨啊。你想、你是一个孕龄女青年、我是一个育龄男青年。这一个男青年碰上 一个女青年生一孩子这是多正常的事啊。很多人准备很多年都怀不上哪。
12 佳倩：你是挺高兴的啊。你在上海的时候就高兴、你在床上更高兴、从头到尾就你一个人高兴。我一点儿都不高兴。
13 易阳：那时候你挺高兴的。
14 佳倩：刘易阳！
15 易阳：行了行了行了。
16 佳倩：你、你知不知道这要做人流有多疼啊！ 我最怕疼了。你还笑你。我万一做完这次手术我不能生育了。你到时候肯定嫌弃我、你肯定会娶别的

女人。你要敢这样的话、我就上你们家闹去、反正我知道你们家在哪儿、我变成鬼我缠着你。不行、我投胎我做你女儿、我跟你对着干、我折磨死你！

17易阳：不不不、不是不是。不是、咱们、咱们说到哪儿了。你怎么、什么时候就说到这事上了。

18佳倩：那我说哪儿啊。说你年富力强、百步穿杨、咱是不是还得干一个呀。

19易阳：不是不是、你、你等会儿啊。你等会儿等会儿等会儿。挺高兴的一事怎么说到这事了。你让我往前捋两句啊。我刚才说...

20佳倩：别捋啊。服务员、给我来一杯子。

21易阳：你干吗呀。

22佳倩：至少咱们俩现在还能体会一下、准父母的心情、庆祝一下呗。

23易阳：庆祝什么。

24佳倩：（ビールとグラスを受け取る）谢谢啊。

25易阳：不是、等会儿。等、等会儿。庆祝是可以庆祝的、但你那措词不对、什么叫准哪、咱这事就定下来了。

26佳倩：定什么定啊你。

27易阳：孩子呀。

28佳倩：刘易阳、你别装了啊。就算你现在跟我一样紧张、一样害怕、没事、我能理解。谁没第一次啊、是不是、没事。

29易阳：是、我是被这突如其来的事实给惊着了。但是我很负责任地告诉你、我那是高兴、是幸福、是兴奋。童佳倩、我记得我上高中的时候我就跟你说过、我说只要将来咱俩一合法、咱俩那孩子就生他一堆一堆一堆的。咱俩现在就是没合法而已嘛。咱合法了不完了。我承认、我承认我刘易阳的现在、条件不好、和那些曾经要追你、和有想法要追你的人、有一定的差距。我给不了你物质上的享受、我没车、我没钱、我没房子.....。

30佳倩：打住打住。这故宫房子多、我能嫁给它吗？

31易阳：你让我说完。我刘易阳这么多年、也算是一个历经考验的好同志了吧。咱不说别的。咱就说说、我、我个人的终身奋斗目标。

32佳倩：什么奋斗目标啊。

33易阳：我的目标就是、要给你童佳倩幸福、给全家人幸福、给我们的子子孙孙幸福。

34佳倩：真的。我怎么不知道啊。

35易阳：一个大老爷们儿不能把这些话老放在嘴边、幸福是什么、幸福不是靠你说就能说出来的。幸福是得你实实在在干出来的。

36佳倩：老公、我信、我特别信、你说的每一句话我都信。我真的特别爱你、老公、我特别特别爱你。我、我童佳倩命好、让我遇见你了、而且头一次谈恋爱就遇到你了。没事。老公、我不怕了、我不怕疼了。真的、我真的一点都不怕疼了。

37易阳：我合着说了半天都是废话是吧。

38佳倩：不是、我、我、我不是这意思。我是说、我真的不怕疼。你相信我、我、你对我的安慰特别特别管用、老公。你说的话特别管用、真的可管用了。

09

1 童妈：你看啊、这是我们佳倩毕业的时候、穿着学位服照的。这个呢、是在北戴河我们全家去玩。这个是参加拓展训练。

2 老鲁：你别说、佳倩真是女大十八变哪。

3 童妈：那是。不看看遗传了谁的基因？

4 老鲁：行。这样。等我回去跟我们杜毅说说。他要是愿意吧、咱们就。

5 童妈：别找借口啊。

6 老鲁：怎么了？

7 童妈：什么叫他同意呀。我们佳倩哪一点配不上你儿子啊。要学位有学位、要模样有模样。说实在的、我还得去做我女儿工作呢。

8 老鲁：我说什么了、你就这么一堆你。行、今天我就做回主替杜毅答应了。

9 童妈：就这么定了。今晚上七点、在我们家见面。

10老鲁：那就一言为定。

11童妈：一言为定。

12老鲁：急茬儿、还是、看你。

10

(劉家の居間で易陽と佳倩が易陽の家族と話をする)

1 易阳：爸、妈、奶奶、佳倩也不是外人、是不是？ 这么多年啊、熟。那个、今天啊我们俩有一件事儿、就是回家来、咱们一家人分享一下。有了。

我们俩打算结婚。

- 2 刘妈：哎哟、佳倩、你怀孕了？ 咳、你现在是不是腰酸哪？ 犯不犯困？
我怀阳阳那时候、天不黑哪、我就瞌睡了。想想吃四川那个泡菜萝卜、
想得我都不行。有时候、晚上我就睡不着。你说、有没有这感觉？
- 3 刘爸：阳阳啊、这事太突然了。这我们脑子一时也转不过来呀。
- 4 易阳：你这就别转了吧。这事不突然。这么多年怎么就突然了？ 您不用转。
我们俩都已经想好了。我们俩当事人同意这事。今天回来呢、就是跟家
里的老人通知一声。
- 5 刘爸：通知我们？
- 6 刘妈：你爸的意思是说呀、这么大的事、你怎么也得让我们准备准备呀。对吧。
你看、结婚得有地儿住。是不对、那洪家园说是要拆迁了、可是也指不定
什么时间呢。等到房款下来、我们就给你买新房啊。
- 7 佳倩：不是。阿姨、这事你不用操心。我跟刘易阳商量好了。我们打算先租房
子住。
- 8 刘妈：租房子？ 不在我们刘家住啊？
- 9 刘妈：租房子？
- 10 佳倩：这儿不是挤吗？ 而且我们俩住这儿也不方便、您说是不是啊？
- 11 易阳：妈、我们俩的意思呢、是、是这样。毕竟我们俩还年轻、是吧。新婚小
夫妻马上又会个小宝宝。我们主要是想有自己的生活、不是为了避免咱
们这么多人、相互打扰吧。但是你们放心、我们俩呢、结婚和没结婚不
是一样的。就我们还是会经常回来看你们的。时不时地还能在这儿。这
个住一宿两宿的、是不是？
- 12 刘妈：一家人在一起住了多少年、都没嫌打扰。结婚了还打扰了。
- 13 易阳：奶奶、我的意思是说、咱们这一大家子人住在一块儿、这不太方便、是
不是？ 首先咱家这条件不允许。就我那房子、我一个人住都憋屈。佳
倩过来不得挤死啊。再说了不到一年孩子出来了、这、这怎么住呀、没
法儿住。八十年代伙在一块儿过可以。这都二十一世纪了。奶奶、您这
观念真得改改。
- 14 刘妈：二十二世纪、我也改不了。
- 15 易阳：您、您。爸、你看奶奶。
- 16 刘爸：小童、那你父母怎么看待这个问题呀？

17佳倩：嗯…。

18刘妈：哎、佳倩哪、这样、阿姨做个住、你们既然结婚了、就得住在我们家里头。这样呢、我们老家儿可以照顾照顾、是不是？再说、你现在都怀孕了。你说呢。

19刘爸：那、行、行、行、行了。这事情没弄清楚呢。你这瞎做什么主啊？再说、我这一家之主、也轮不到你们女人呢、是不是？小童、你们家也是你父亲执政吧。

20佳倩：啊、差不多吧。

21刘爸：你看、我说什么来着？那你父母怎么看待这个问题呀？

22佳倩：他们没意见。

23刘爸：嘿、怀孕这么大事他们没意见。嘿、那你父母也够开化了。

24佳倩：不是、他们不知道。

25刘爸：嘿、他们、他们不知道。那、你那你们连准备结婚的事、他们不会也不知道吧？

26易阳：嘿、嘿、嘿、…。爸、瞧你。你看、你把佳倩弄得紧张乎乎的。我们俩是这样的。本着尊重咱们老刘家的这个、这个心态、怎么也是男方家先知道这事、是不是？这一会儿去他们家。

(易陽の父は我慢できず自分の部屋へもどる)

27刘妈：佳倩哪、阿姨要做晚饭了。吃完再走吧。

28佳倩：不、阿姨、我们不吃了。我们还得上我们家跟我爸妈交代呢。

29刘妈：什么？

30佳倩：不是、通知他们。

31刘妈：阳阳、办完事回家啊。妈妈给你留着饭。

11

(易陽と佳倩が易陽の家へ行く途中での会話)

1 佳倩：你们家人怎么那么大火气呀。

2 易阳：你让他们冷不丁地接受咱们俩的决定、确实有点难为他们了。

3 佳倩：那要我的话、我特别喜欢过二人世界、他们怎么、怎么老喜欢家里人越多越好。这上个厕所还得排队、多麻烦呀。

4 易阳：谁说不是哪。我也觉得不合适、但是这事老人家嘛、咱们得理解。像我

奶奶这种人吧、属于面冷心热、这事我回去跟她好好谈谈、应该没问题。

5 佳倩：不行、不行不行。不是、你看你爸妈还没我妈那么反对呢。这个、因为程序问题她都生气了。咱们俩要是跟我妈一摊牌、她肯定得炸猫。这事我觉得咱们不能那么冲动、得好好想想、得从长计议。

6 易阳：亲爱的、我觉得这事吧、咱们俩迟早得面对。咱们索性就让暴风雨来得更猛烈点、我们做好充分的思想准备、做最坏的打算、杀人不过头点地嘛。我就不信了、我一进你们家门、我就跟你妈把这事给交代清楚了、我一定让你爸妈被我的理想和对爱情坚贞不移的信念而打动。

7 佳倩：你呀、你别闪了舌头。

8 易阳：我不是吹。我只要见着你爸你妈、我就把这脑袋别裤腰带上了、冲着你们家二老、就二马一错蹬、我仓唧唧。我就跟他们讲、我说您要是^不让我带走我老婆、您就把我这脑袋留下做个纪念、你觉得成吗？

9 佳倩：滚、没正形。

10 易阳：你还真别不信。这事咱走着瞧。

12

(佳倩の家での会話)

1 童妈：哎哟。我的天哪、你给佳倩打电话了没有啊？

2 童爸：打了、打了。在路上呢。快到了。

3 童妈：你说这孩子多不懂事啊。跟她说了让她今天下班准时回来、还是不听话。

(呼び鈴が鳴る) 老鲁啊？

4 老鲁：是我！

5 童妈：来了！

6 童爸：快快快！

7 童妈：来了来了来了。

8 杜毅：田阿姨。

9 童妈：杜毅！

10 老鲁：我把儿子给你带来。怎么样？

11 童妈：好好。

12 老鲁：哎哟、老童！ 老童。

13 童妈：快快快！ 这是杜毅。

14老鲁：童叔叔。

15杜毅：童叔叔。

16童妈：你看帅不帅？

17杜毅：我给你们带了份礼物。

18童妈：拿什么东西啊。

19老鲁：佳倩哪？

20童妈：佳倩都在路上了。说马上就到了。

21童爸：对对对。

(呼び鈴が鳴る)

22童妈：回来了、回来了。回来了。

23佳倩：妈、爸。

24童妈：佳倩。

25佳倩：鲁阿姨、你们怎么来了？

26童妈：那个、小刘啊。你也来了、小刘。

27易阳：对、田阿姨。

28童妈：对、那个、快点、那个、去把那个茶赶紧泡了。(佳倩に向かつて) 去陪你鲁阿姨啊。

29童爸：来来、里边坐里边坐。

30童妈：把那大红袍啊、大红袍。

31童爸：太难得了。来来、坐坐、别客气客气啊。来、把东西都放下。

32易阳：阿姨。

33童妈：你看、你来就来了。你还拿什么东西？

34易阳：阿姨、我还没换鞋呢。阿姨。

35童妈：你别动啊。站着别动。(佳倩に向って) 佳倩哪、佳倩、你不认识杜毅了吗？那小时候一块儿、你还穿他衣服呢。你孩子。

36佳倩：我知道。

37童妈：那什么。

38老鲁：你忙、你忙。

39童妈：我做饭去。你赶紧给。

40童爸：是是是。

41童妈：快坐下呀、快坐。

42童爸：来来来、快坐坐坐。我来我来泡。来来来、我来、来。

43老鲁：佳倩。

44童妈：老鲁啊、你先在那儿喝茶啊、老鲁。你怎么来了？

45易阳：我来看看您。

46童妈：你们俩不是已经吹了吗？

47易阳：后来我们又和好了。

48童妈：刘易阳啊、阿姨今天拜托你件事好吗？你看啊、那个男孩子是一直喜欢佳倩、那个男孩。你说他就喜欢、他就不行了。你知道吗？所以阿姨今天安排他们见个面、我也不知道你来。你知道吗？这事你说、一下就顶在这儿了。你看、你今天能不能这个给阿姨点面子。你就说你结婚了、有家了、知道吗？你是有事。佳倩今天有事你送她回来、好不好？东西拿不动、你帮她拿。然后呢、这个、你俩的事放下。阿姨等他们走之后再权衡、好不好？今天阿姨就拜托了。真的。你不能打我脸、你知道吗。你说这多难看呢。好不好？

49易阳：那、那您是说让我说瞎话？

50童妈：不是瞎话。权宜之计、你知道吗。那你现在这怎么办呢？你不能让我这、我脸没处搁。那是我多年的老同事啊。我要是、那明天单位全都知道了、阿姨没法做人了、知道吗。阿姨拜托你了、就这么着啊。我说什么你就听什么、我给你使个眼色什么、你就按照我的意思来好吗？

51老鲁：老田啊！忙什么？过来啊！

52童妈：（易陽に向かつて）那个、就这样啊。来来、来了啊、来了！鱼来了。

53童爸：好好好。

54童妈：来来来。

55易阳：阿姨。

56童妈：唉、那个小刘啊。那个你要家里有事我就不留你了。你就、你是吧。谢谢你了啊、送佳倩。

57童爸：不是、小刘、来来来。忙完了一块儿吃、吃完了再走。

58童妈：他有事。

59佳倩：你坐下吃吧。

60童爸：来。

61童妈：是、那也行。反正也不差这一会儿。

52童爸：来。

63童妈：也是到吃饭时间了。那个、吃完饭再回去。你坐坐坐。那个、来来来、快、来、坐。坐吧。你不用客气。来来来。

64佳倩：妈、你干吗？

65童妈：那个、老鲁啊、怎么都不动筷啊、你们？ 那个、杜毅。(夫に向かつて)
快点招呼着你。

66童爸：对、来来来、动筷子。

67童妈：怎么了、老鲁？

68老鲁：那个、老田。佳倩说这是她的男朋友啊。

69童妈：谁？ 是谁的？ 该死孩子。你就是愿意这、这胡说八道、这种玩笑能瞎开吗？ 不是、我跟你讲、人家都已经结婚了。是吧、小刘？

70易阳：结了。我是童佳倩的同事。

71童妈：你看、她就是愿意。

72佳倩：同事？

73童妈：那个、赶紧快吃吧。杜毅、杜毅、快尝尝。这是你叔叔的手艺。这是叔叔做的。

74老鲁：你别说啊、别说老童的手艺还真不错啊。

75童妈：是啊、是啊。

76老鲁：做了这么多。

77童妈：来、快吃饭吃饭吃饭了。

78老鲁：那就不客气了。

79童爸：好、来。

80杜毅：行。(佳倩のために魚をとってあげる)吃、给你鱼。

81佳倩：我不爱吃鱼。刘易阳、你吃吧。

82童妈：你不最爱吃鱼了吗？ 你不爱吃、谁爱吃啊？ 我们佳倩最爱吃鱼了。
要不能这么聪明吗？ 就是啊、太生了、你知道吗？ 小时候一块儿玩、但是长大了没怎么见面啊。多见几回就好了。

83童爸：是是是。

84杜毅：好久没见了。慢慢熟了就好。

85老鲁：对对对。熟了就好了、熟了就好了。对、佳倩哪、我们杜毅还会做饭哪。等以后熟了吧、到我们家去让他给你做。喜欢吃什么啊？

86杜毅：对、下次去我们家、我。

87老鲁：对。

88佳倩：我没什么爱吃的。

89童妈：不爱吃？ 你就爱吃那个、就什么糖醋的。

90老鲁：糖醋的？ 那太巧了！ 我们杜毅呀、最拿手了做糖醋排骨。是不是杜毅？

91杜毅：对对对、是。

92佳倩：那我^最不爱吃的就是糖醋排骨了。不是、关键是那个排骨太塞牙了。是吧、刘易阳。

93童妈：这小刘就像没听见你说话似的。刘儿啊、怎么？ 家里这不放心、是吧。太太一个人在家。要不你、你要吃好了、你就先回去吧。

94佳倩：还早呢。人家还没吃呢。

95童妈：你看、人家送你回来就行了。你别让人家心里有事坐不住啊。那个、小刘、那就阿姨谢谢你了啊。刘易阳、那你就先。

96佳倩：那行吧。我不吃。我送他。

97童妈：送什么呀。都是同事。你坐着陪着鲁阿姨啊。那个、小刘、我送送你。

98佳倩：刘易阳、你站住啊！ 不是什么二马一错蹬吗？ 你不是仓唧唧吗？ 你。你怎么那么没出息啊、你？ 妈、我不管你跟刘易阳说了是什么、但是这游戏我实在是玩不下去了。鲁阿姨、告诉您吧。他是我男朋友。我们都快结婚了。

99易阳：不是不是不是。

100佳倩：不是什么呀、你。没看出来我妈在给我介绍对象哪？

101童妈：童佳倩、你生下来就跟我作对的、是吗？

102佳倩：不是我在跟您作对、是您在跟我作对。

103童妈：老鲁啊。

104佳倩：我告诉你们一事。我怀孕了、是刘易阳的。

105易阳：我先走了。

106佳倩：你怎么那么没出息啊、你？

107老鲁：老田、你这整的什么事啊这是？

108杜毅：妈、妈、咱走。

109童妈：老鲁。

110童爸：老鲁啊。那个老鲁、再吃一口吧啊。吃一口再走。

111童妈：老鲁、我跟你讲啊。你听我给你解释。

112老鲁：别说了。

113童妈：根本就不是那么一回事。

114老鲁：别说了。

115童妈：我跟你**说**。

116童爸：我、我送送。我跟你**说**、你看、今天这是误会啊、他俩。

117童妈：（佳倩に向かつて）你刚才说什么？

118佳倩：我说我怀孕了。我们俩要结婚。这就是我今天来带他告诉你们的。

119童妈：我告诉你。我不允许、我**不允许**、我**不允许**！

13

（夜、佳倩の家で佳倩の両親が佳倩と易陽に話す）

1 童妈：今天我必须做一个非常深刻的自我检讨。我太放纵女儿了。我错误地理解了穷养儿、富养女的一观念、以为给女儿最好的、让她衣食无忧。她就不会因为一块儿蛋糕、跟别人跑了。可我、可我忘记告诉她、没有蛋糕的日子是过不了的、是万万不行的。

2 佳倩：妈、我嫁给刘易阳、又不是去要饭。你怎么说得那么惨啊。再说、我以后肯定会比以前好的、是不是？

3 易阳：啊。

4 童妈：人们常说安居才能乐业。你们连安居都做不到、何谈乐业呀？在哪儿乐业呀？

5 易阳：不是。叔叔、阿姨、其实我和佳倩能安居。现在在外面租房子的年轻人很、很多。不止我们这一对。

6 童妈：谁愿意在、在外边儿租谁租。我**不允许**我的女儿过那样的日子。我**不忍心**、**不甘心**。

7 童爸：别激动。来。别激动啊。

8 童妈：作为一个思想政治工作者、还兼管着单位的计划生育工作。可是我连我女儿的思想工作、我都没有做好。连女儿的生育我都没有计划好。一个女孩子在没有任何计划的情况下、就怀了孕、这会造成什么样的后果。你想过没有？孩子有没有问题？你们考虑过吗？如果孩子有问题、

母亲要去流产、这会对、对母亲造成多大的伤害。你们考虑过吗？没有。你们只图一时之快、图一己之利。这不是放纵是什么？

9 童爸：喝。喝点儿水啊。

10 童妈：涉及到婚姻这种大事、我们父母总应该有知情权吧。尤其是在我们父母百般反对的情况下、佳倩居然怀孕了。我不知道作为刘易阳你的父母是否知情。他们是什么态度？是支持还是反对？说实在的、作为女方的家长、我们有一种受到伤害的感觉、很不尊重！

3 語詞注解

ここで取り上げた語句は台詞を読み解く上で説明が必要だと考えたものである。ただ、注解は主に語句の使用がおよそいつごろから始まったのかに焦点を当てるようにした。これは言葉の通時的研究に役立つと思ったのと通時的な目で言葉を見ることによって理解を深められるのではないかと考えたからである。また、この語詞注解で北京語としているのは北方方言であり、また「北京語の文法特點」で指摘されたものも含んでいる。そのため元々北京語であったが、今は標準語化したものもある。

凡 例

- 1 ○の語句は標準語の語句で●の語句は北京語であることを示す。
- 2 一の前の数字はどこの場面かを示し、一の後ろは場面の何番目の台詞であることを示す。例えば01—1は場面01の1番目の台詞に当該語句があることを示す。また、太字のものは語句の下に下線が引いてあることを示す。そうでないものは下線がなく単にどの場面の何番目の台詞かを示すのみである。
- 3 【特點】がある語句は「北京語の文法特點」で取りあげられた語句であることを示す。

●那么01—1 02—2 03—12 03—34 11—1 11—5 12—98 12—106
12—113 13—2

程度や状態を示す語彙であるが、元代ごろから使われるようになったようである。『中国語歴史文法』には最も古い例として元曲『老生兒』の用例が挙げられている。【特點】

○心有灵犀01—2

《灵》は繁体字では《靈》で以心伝心の意。“心有靈犀一點通”とも言う。言い伝えて犀の角に白い筋が根元から尖端まで通っていて物事を敏感に感じ取る力があるとされ、心と心が一筋に通い合うことを白い筋に喩えている。唐の詩人李商隱が詩（「無題」：“身無彩鳳雙飛翼 心有靈犀一點通”）に使ったことから始まったと言われている。

○是吧01—2 03—45 05—12 06—14 08—37 10—11 12—56 12—69
12—92 12—93

“だろう”と訳したが、普通文の後に置いて聞き手に確認する意味で使う。《吧》は推量を表す。

○（你）要去几天呢01—5 01—16 08—3 08—5 13—8

《要》は助動詞で“～なければならない”の意。南朝宋の劉義慶の『世說新語』に“孫興公作天台賦成、以示范榮期云鄉試擲地、要作金石聲。”とあり南北朝時代にすでにみられる。

●这么01—7 01—14 01—24 01—32 02—3 03—4 03—45 04—8
05—1 05—4 08—5 08—31 9—8 9—9 10—1 10—4 10—6
10—11 10—23 12—76 12—82

“このように～”、“こんなに～”等の意。『中国語歴史文法』によると宋代に《這恁》や《那恁》と書かれ代名詞として使われ“こんなに～”という意で使われるようになったのは元代からのようである。【特點】

●跟01—9 01—17 03—23 03—37 03—45 06—2 06—10 06—14
07—1 08—16 08—29 09—14 10—4 10—7 10—28 11—4 11—5
11—6 11—8 12—3 12—69 12—98 12—101 12—102 12—102
12—111 12—115 12—116

“～に対して”、“～に”等の意を表す前置詞。【特點】

○小妖精01—9

《小》は“若い”“かわいらしい”というような意を表す。“妖精”はもともと妖怪・妖精を指していたが、色香で男を惑わす女性を指すようになったのは清朝時代のものである。李漁の「奈何天・第五出隱妒」に“他近来娶了兩個妖精十分碍眼”とある。

○留电话01—9

元々携帯電話に他の人の電話番号を記録させておく意味であるが、電話番号を交換するなどの他、連絡を取り合う意味にもなるようである。

○好好儿01—11 11—4 11—5

“しっかり～”、“十分に～”の意。この言葉は宋代に見られる。『朱子語類』の第百九卷に“我不理會、也得好好做官去”とある。

● (大) 老爷们儿01—14 08—35

“大の男”の意である。《老爷们》は男子を指し、太田辰夫氏が「北京語の文法特點」で北京語の語彙であることを指摘している。他の第2集に“老爷们儿就得有一个老爷们儿的样儿。”、第4集に“阳阳。他大大方方的。你是个大老爷们。行不行的你说了算。”とある。また、他の5集、6集、10集、20集等にも見られる。【特點】

○讲究01—14

“問題にする”、“とやかかく言う”等の意。この言葉は宋代にはすでにあつたようだが、“研究する”という意味でここでの意味を表すようになったのは清朝時代のものである。『官場現形記』第六回に“另外有個小廚房、飲食極其講究。”とある。

○ (你) 一 (星期就这么) 一 (小箱子) 01—15 03—20 08—5 08—7

08—11 13—1

《星期》と《小箱子》を量詞化したものであり、口語では非常によく見られる現象である。この第1集に見られたものは下記の通りである。

一星期 一小箱子 一啤酒 一比萨 一孩子 一共产党员 一观念

○还不…? 01—15 03—45 04—15 05—11

反語で語気を強めて“それなのに～”、“それでも～”等の意。“还不～吗?”の《还》や《吗》は省略されることがある。

● (一) 点儿01—17 02—14 05—2 06—2 06—17 08—2 08—12 08—36
09—7 11—2 11—6 12—28 12—48 12—65 13—9

“少し”、“ちょっと”等の意。《一》は省略されることが多い。【特點】

○就是01—19 03—45 04—25 05—7 06—2 06—14 08—29 08—33
10—1 10—4 10—69 10—71 12—92 12—118

性質・状態を強く肯定し“どうであれ～だ”の意味を表す。元代ごろまでは《便是》が使われていたが後に《就是》に取って代わられていく。『小韻』に“康子以前北京城の現象、除了黑暗、就是顽固。除了腐败、就是野蛮。”とある。

○絮絮叨叨01—19

話がくどいことを表す。形容詞《絮叨》のAABB型である。この言葉は元代には見ることができる。例えば、白樸の「梧桐雨」第四折に“長生殿那一宵、轉迴廊說誓約、不合對梧桐雨并肩斜靠、儘言詞絮絮叨叨。”とある。また、類似の言葉として《絮絮答答》、《絮絮聒聒》等もある。

○様子01—19

“様子”や“表情”の意。漢語大詞典に元代の例を一つあげているが、十分ではないのでいつの時代から使われるようになったのか調査中である。

○小妇女01—19

“妇女”は“婦人”の意でそれに“若い”という意味の《小》がついたもの。

○ (谁是絮絮叨叨的) 了01—20 01—22 02—1 02—6 02—7 02—11
02—12 02—14 03—12 03—13 03—33 03—40
03—45 04—8 04—15 05—12 05—20 05—23

06—1 06—2 07—3 08—29 08—31 08—36
 10—4 10—6 10—7 10—13 10—18 10—27
 10—28 11—6 12—20 12—31 12—48 12—50
 12—56 12—63 12—69 12—77 12—78 12—82
 12—84 12—90 12—92 12—95 12—98 12—105
 12—112 12—114 13—1

この《了》は文末に置く助詞である。『中国語歴史文法』では叙実語気を表す助詞とあり、宋代から見られるとある。例文に『朱子語類』の用例を多く挙げています。

○不…吗？ 01—20 03—41 04—25 06—1

この“不…吗”は“还不…？”と同じく反語を表す。

○少来01—21

《少》は動詞の前に置かれ禁止を表すが、ただ“控えめにする”というニュアンスをもつ。ここでの《少来》は《少来这一套》の省略形である。また。《少》を前に置くことのできる動詞も限られているようである。「裸婚時代」全体では《少来》以外に《少装》、《少管》、《少说》等がある。そして最も数の多いのが《少说》で下記の例文で示す通り必ず《两句》が後置されている。

- ①少装了。他们在公司早就是公开的秘密了。(第24集)
- ②这呀、是他自己的事。我看、咱们还是少管。(第30集)
- ③算了。少说两句吧。人家小两口自有分寸。(第7集)
- ④你就少说两句吧。还不快点儿给孩子弄点儿水喝。(第14集)

○要是01—23 03—17 03—23 09—4 10—11 11—5 11—8 12—50

仮定を表すが、もともとはそうでなかったようである。『中国語歴史文法』に“《要》は意欲をあらわす補助動詞であるがこれが假定に轉じたもの。《要》を用いるようになったのは清代で、はじめは人間をあらわす主語のあとにかざって用いられ、やがてこれが勢いを得て、それまであった《若》《若是》にとって代るようになったのではあるまいかとおもわれる。”とある。

○必須01—23 13—1

“必ず～なければならない”の意である。北齊の時代頃から見られる語彙のようである。『顔氏家訓』後聚第四に“河北鄙於側出不預人流、是以必須重娶”とある。

○彩信形式01—23

“写メール”の意。日本に長く住んでいるネイティブの先生の多くは知らなかったので恐らく最近使われるようになった言葉のようである。

○頂嘴01—25

“口答えをする。”の意。明代には見られる言葉である。『西遊記』第2回にも“師父傳你道法、如何不學、卻與師父頂嘴”とある。

○把手先伸出来01—29

副詞の《先》を介詞《把》の前に置かず動詞の前に置き“手”を強調している。

○福利01—30 06—8

福利厚生の福利の意味から転じたものだと思うが、ここではよいものという意味に訳した。06—8にでてくる《福利》は福利厚生の意味である。

○娘子啊…以身相许01—33

わざと芝居じみた言い方で言っている。恐らく京劇の何かの演目にこれと似た台詞があるのだと思う。

●这么着01—34 12—50

“このようにする”等の意。ある動作または状況を具体的に言う代わりに用いる。この用法は清代に見ることができる。『紅樓夢』第31回に“你何苦來替他招罵呢？ 饒這麼着、還有人說閒話、還攔得住你來說這些個。”とある。

【特點】

○～的话01—34 03—12 03—17 08—16 08—38 11—3

仮定の意を表す。『中国語歴史文法』に“《的話》は言うまでもなく、〈…の事は、…の事は〉の意であるが、これが《至於》《對於》のような論及する語気に転じた例がある。仮定はそこから更に轉じたものであろう。”とあり『兒女英雄伝』の用例を挙げている。

○天大02—1

“非常に大きい”意。『水滸伝』第41回に“怎地啓請衆位好漢、再做個天大人情、去打了無爲軍、殺得黃文炳那廝、也與宋江消了這口無窮之恨”とある。

○喜讯02—1

“吉報”、“嬉しい知らせ”等の意。巴金の『家』二に“一双水汪汪的大眼睛发光地盯着他的脸、好像得到了一个大喜讯似的”とある。

○快～了02—1 12—2 12—18

《快》は副詞。《快要》《将要》ともいう。“もうすぐ～”の意。《了》は《快》に呼応する。巴金の『寒夜』六に“这学期已花了两万多、快三万了”とある。また。《了》は《啦》とも書く。『小額』に“您瞧、快晌午啦。”とある。

●咱们02—1 02—5 02—10 03—33 03—49 04—8 06—2 08—17 08—22 09—4 10—1 10—11 10—13 10—26 11—2 11—4 11—5 11—6

包括形で“私たち”の意。【特點】

○要～了02—1 10—6 10—27

《要～了》は“もうすぐ～する”意で近い未来を表す。このような表現は宋元以降のようである。『中国語歴史文法』に『朱子語類』と『紅樓夢』の用例を挙げている。

○拆迁02—1

建物を取り壊し、立ち退くこと。『漢語大詞典』に説明はあるが、用例がない。

近年使用されるようになった語彙のようである。

●靠谱02—4

現代北京方言。元来、《离谱》（物事の法則や筋道から外れる）から派生した反義語。“信頼できる、頼りになる”の意。この第1集以外でも19個見られる。例えば、「裸婚時代」の第4集に“靠不靠谱、我先不说。”、第8集に“我跟你说。我给你推荐个法国牌子。太靠谱了。”とある。

●准02—5

副詞で“きっと”、“必ず”等の意。【特點】

●可～02—6 13—1

この《可》は逆接を表し、元代の文献で見られるようになる。康進之の『李遠負荆』第2節に“他口裏說不要、可揣在懷裏。”とある。【特點】

○咱02—6 04—13 04—15 04—17 12—10

ここでの《咱》“われら”、“俺たち”等の意であると考えられる。『中国語歴史文法』によれば《咱》は《自家》が合してできたもので宋代の文献から見ることができるが、宋代から元代にかけて《咱》が複数であることを意識されなくなり《咱》に複数を表す接尾辞《們》が付加されるようになったということである。

●老鼻子02—6

北方方言で非常に多いことを表し、《了》を伴って使用されるようである。周立波の『暴风驟雨』第一部四に“二十天、二十宿、没有睡觉、一天吃两顿橡子面、吃了肚子胀、连饿带冻、死的人老鼻子啦”とある。

●赶明儿02—7

《赶明儿个》とも言う。“そのうち”、“いつかまた”等の意。このドラマの中でこの語彙を使用するのは年配の者だけのようである。『龙须沟』第3幕第2場に“赶明儿个、旧沟又垮垮的一填、填平了、又修成一条马路”とある。

●上02-7 06-8 08-16 08-29 10-28 11-3

“～へ行く”意。元々は北京語であったが、現在は標準語として使われている。

【特點】

●住着去了02-7 02-14 03-45 08-10 11-4 12-28 12-39 12-63
12-93

“住んでやる”意。《去》を動詞の前に置かず動詞の後に置く用法は元々古い北京語であったものらしい。【特點】

●实心眼02-7

“生真面目”、“根が正直な人”、“他人の言うことを何でも真に受ける性質”等を表す。『北京話詞典』にもこの語彙が収められている。また、『兒女英雄傳』第35回に“安太太合舅太太说道：我这位老姐姐怎么这么个实心眼儿”とある。

○老骨头02-7

“老体”の意で老人が自分のことを謙遜している言葉である。この言葉は唐代にはすでに使われていたようである。『全唐詩』870卷「鄆城令・示女」に“深宮富貴事風流、莫忘生身老骨頭”とあり、『兒女英雄傳』第3回に“大爺不用着急、靠我一個人兒挺着這把老骨頭也送你到淮安了”とある。また、老人が自分の身体をさして言う言葉のようである。

○远见02-8

見識の深いことを表す。古い時代の文献には見えないので、比較的新しい時代のものかもしれない。老舎の『四世同堂』四四に“老人非常自傲这点先见之明、说完了、一劲儿梳弄胡子、……好像是表示胡子便代表智慧与远见”とある。

○万-02-9 08-16

“万-~なら”の意。仮定の意味を表すが、好ましくないことに用いることが多いようである。

●指02—10

“頼る”、“当てにする”等の意。この語彙は『北京話詞典』に収められていて老舎の『四声同堂』八に“人家指着这个吃饭呀。”とある。また『漢語方言詞典』にも収められ“冀魯官話”に属し“老了以后指儿养老”という例を挙げている。

●没准儿02—11

“わからない”、“はっきりいえない”、“ひょっとしたら～かもしれない”、“～とは限らない”等の意。古い文献には見ないので近代にはいつてから生まれた言葉かもしれない。『北京話詞典』にもこの語彙は収められていて老舎の『四世同堂』八八にも“没准儿、他在日本举许还能弄个日本老婆呢”とある。また、「裸婚時代」の他の集に次の3つの用例がある。

- ①没准儿。就是有时候爱吃酸的、有时候爱吃辣的。(第5集)
- ②眼睛里腾出百分之一的空、来看看别人。没准儿你会有收获。(第24集)
- ③你看人家这两口子没准就不吵架。(第29集)

●(老太太)美的02—13

この《美》は“得意になる”、“有頂天になる”等の意。第1集以外の第6集に“不就三十块钱吗？你看看把你美的。”とあり、第23集に“当年那童佳倩给他织一围巾。那给他美的、戴好多年呢。”とある。

○老公03—1 04—3 08—36 08—38

“亭主”、“夫”等の意。呼びかけの時にも使う。結婚していないカップルであっても、お互いを《老公》《老婆》と呼ぶ。ここでは親愛の情を込めて“ダーリン”と訳した。

●干吗(呢) 03—2 03—24 03—33 04—3 08—21 12—64

“何をする”意。《吗》は《什么》の意で《嘛》《啥》《麼》等の字も使う。《呢》は進行を表す語気助詞である。【特點】

●(凭什么) 人童建业同志敲门、您就不敲啊03—4

このセンテンスの中の《人》は《人家》の意味で第三者を指す。日本語では“あの”と訳した。ある上海出身の中国人によれば、《人》は上海では必ず《人家》と言うそうである。北方方言の一つである可能性がある。《小額》にも“此人姓名、当护军参领、人都称呼他明保明五爷。”とある。

● 怎么着03—5

“どうする”、“どうなのよ”、“どうしたの”等の意で動作または状況を問う語彙である。『紅樓夢』の第11回に“你媳婦今日到底是怎麼着。黛玉還覺得怎么着。”とある。【特點】

○ 歪理03—6

“屁理屈”の意。漢語大詞典に挙げている用例は当代文学作品からのものばかりなので中国の建国後に使われるようになった言葉かも知れない。

● 没03—7 03—16 03—32 03—45 03—51 06—2 10—11 10—12 10—19 12—34 12—93 12—94 12—100

否定詞で動詞の前に置き実現していないことを表す。清朝時の古い北京語ではこの《没》が《没有》にならなかった。南京官話ではこれを《没有》にした。現代も北京では《没》を多用する。【特點】

○ 早恋03—12

十代の学生が恋愛をすること。中国では進学競争が激しく就学時の恋愛は否定的な見方をされることが多い。第2集に“你想想啊。你从一进高中你就俩就早恋。你这学习成绩直线就往下下降啊。”とある。また、中国人留学生に聞いたところでは高校生の男女がデートをするようなことはなく、勉強でそんな時間はなかったということである。

○ 关键03—12 12—92

本来この語彙は“肝心なのは”、“大事なものは”等の意であるが、ここでは前後の意味から“第一”と訳した。この語彙自体は晋の時代の文献に見られる。葛洪の『抱朴子』「暢玄」に“顧盼為殺生之神器臂吻為興亡之關鍵。”とある。

●都03-12 10-18 12-20

《都》は《已經》の意で《了》とよく呼応する。この《都》は「北京語の文法特徴」にも取りあげられている語彙である。当代の文学作品にもその用例が見られる。『南征北戦』第二章に“都已经三年没见了、哪能没说的呢？”とあり、龚成の『红石口』十八にも“夏天都过去了、再不换又得等明年了”とある。【特徴】

●给谁发信息呢03-13 03-17 03-51 06-2 07-1 08-20 10-6
10-31 12-1 12-10 12-17 12-50 12-85 12-100
12-111

給+人+動詞の形式で《給》は“～のために、～に”の意を表す前置詞。【特徴】

●让我看看03-17 03-23 03-55 04-7 05-7 06-2 06-14 08-19
08-31 08-36 10-6 11-2 11-5 11-6 11-8 12-3
12-49 12-50 12-85 12-95 13-1

《让》は使役を表し让+人+動詞+～の形式で使われることが多い。人の部分が代名詞によって少し意味が変わってくるが、基本的には“～に……させなさい”という意味である。また、同じ動詞の重ねたものであれば“ちょっと……させなさい”の意味になる。『中国語歴史文法』では、《让（讓）》は明代において“ゆずって勧める”の意味が多分に含まれていることを指摘している。また、純粋な使役になっていったのは清代になってからのようである。【特徴】

○隱私03-20

“プライバシー”の意。当代の文学作品に用例を見るので中国建国後に使われるようになった言葉であると考えられる。「裸婚時代」第18集に下記のような会話がある。

女店長：我说了。让你把电话给我看看。

国寧：你能不能尊重我一下。这是我的隐私了。

○只有～才～03-21 03-33

“ただ～だけが～だ”、“～してこそはじめて～だ”等の意であるが、『中国語歴史文法』には“《只有》は《才》と呼應し、強く限定する時に用いる。現代語、ことに文章語では、きわめて多く用いられるが、この用法は決して古いものではなく、近時、《惟有》《唯有》の《唯》を《只》にかえ、いくぶん口語的にしてつくられたものらしい。”とある。

○鬼03-23

“悪賢い”、“悪だくみ”、“後ろめたい”等の意。『紅樓夢』第114回に“年老世翁不在家、這些人就弄神弄鬼兒的、鬧的一個人不敢到園裡。”とある。

●別（让我看）03-23 04-6 13-7 07-1 08-20 08-28 09-2
09-5 10-4 11-7 11-10 12-31 12-35 12-74
12-95 12-112 12-114 13-7

《別》は“～してはいけない”、“～するな”等の意で禁止を表す。「北京語の文法特點」に《別》は北方語で南京官話では《莫》を使うとある。『中国語歴史文法』には『金瓶梅』の例を挙げ、多く用いられるのは清代からであることを指摘している。

○怎么了03-26 03-31 04-23 06-7 07-3 9-6 12-67

“どうしたの”、“どうかしたの”等の意。この用法は清代に入ってみることができる。『中国語歴史文法』には『紅樓夢』の用例を挙げている。

○以为03-32 03-40 13-1

“～と思っていた”という意味だが、後ろに実際はそうでなかった意味の言葉がくる。この語彙自体は古代の文獻に見られる。『春秋左氏傳』僖公二十三年に“及齊、齊桓公妻之、有馬廿乘。公君安之。從者以為不可、將行、謀於驂下。”とある。

●～来着03-34 04-19 05-7 10-21

“～していた”の意。文末に付く助詞で過去の出来事を回想する気持ちを表す。

『紅樓夢』第89回に“妹妹這兩日彈琴來着沒有”とある。太田辰夫氏は早くからこれを北京語の語彙であると指摘している。『中国語歴史文法』にこの《來着》は“清代になって初めて見える”とあり、『紅樓夢』と『兒女英雄伝』から用例を多く取っている。【特點】

●赶紧03—34 12—28 12—39 12—73

“いそいで”の意。近代に入ったころから使われ始めたようである。老舎の『四世同堂』十六に“他赶紧坐好、把嘴唇偷偷的舔活润了”とある。【特點】

○是不是03—34 03—45 07—3 08—17 08—18 08—19 08—26 10—1
10—2 10—10 10—11 10—13 10—18 10—19 10—26 12—90
12—99 13—2

述語の前や文末に置き疑問文を作る。この形式の疑問文は相手に真偽を確かめるニュアンスを表す。

●挺03—37 03—39 08—12 08—13 08—19

“とても～”の意。【特點】

○不错03—37 12—74

“良い”の意で《好》に置き換えることができる。もともと“間違いがない”、“ミスがない”という意から変化したものと考えられる。恐らく清代に《好》の意で使われるようになったのではないかと考えられる。魯迅の『書信集』致孟十還に“果戈里雖然古了、他的文才可真不錯。”とある。

○你说～03—41 03—45 04—27 06—14 10—2 12—3 12—48

相手がどう考えているかを尋ねる時に使う。“～と思う”、“～と考える”等の意。

○货比三家03—42

本来は、同じ品物を三軒回って比較して買い物をするという意味であるが、現在は、買い物以外に、何らかの重要な決断をする場合に、あらかじめ何度

も比較検討するべきであるという意味で使う。

●多～03—45 08—11 08—16 11—3 12—3 12—48

感嘆をあらわす。太田辰夫氏によれば、感嘆を表す《多》は清代までの用例が見当たらず、『紅樓夢』における用例がその始まりのようである。【特點】

○人外有人、天外有天03—45

“上には上がある”という意味の諺。

●像玩闹似的03—45 12—93

『中国語歴史文法』によるとこの《像》は数が少ないが古代の文献にも見られ、多用するのは元代からだそうである。また、《似的》はもともと《也似的》の《也》が省略されたもので『金瓶梅詞話』にその用例を見る。また《是的》と書くこともあり、『紅樓夢』ではその《是的》を多く用いるようである。ただ、『紅樓夢』では《像～似的》の用例を見ることができが、『小額』には《像～似的》の用例がなく、下記のように《仿佛》が使われ《仿佛～似的》の用例が見られる。【特點】

- ① 彷彿在哪兒見過似的。
- ② 你說這檔次大事情、敘的彷彿麻煩似的。
- ③ 一瞧小額吃下藥去、直彷彿有點兒效驗似的。
- ④ 彷彿他忙了個受不得似的。
- ⑤ 因為給趕車的要錢、成心耗著不走彷彿惡習太太似的。
- ⑥ 按額君、這件事彷彿沒有甚麼關係似的。

「裸婚時代」には《仿佛》を使ったものはなく、下記のような《像》や《好像》を使ったものである。

- ① 甚么流行的？ 你给弄的吧？ 真是的。像个小丑似的。(第7集)
- ② 你看倭底下、老张的媳妇儿、结婚前打扮的像小妖精似的。(第9集)
- ③ 看你最近穿得好像没衣服穿似的。(第23集)
- ④ 那不好像自己嫁不出去似的。(第27集)

●得03—45 04—25 08—18 08—35 09—7 10—6 10—13 10—18

10-28 11-3 11-4 11-5 11-6

“～しなければならない”意。助動詞で“dèi”と読む。【特點】

○话丑理端03-45

言葉の表現はきついが、内容は道理にかなっているという意味の言葉である。

●砸手里03-45

《砸》は北京方言で“やり損なう・しくじる・失敗する”等の意。これ以外に第21集にも“因为我的问题搞砸了一个案子。我辞了。”とある。また、老舍の『龙须沟』第2幕に“我十几年没唱了、万一唱砸了、可怎么办呢？”とある。

○哪儿跟哪儿啊03-46 06-11

“まったく関係がないだろう”、“まったくつながりのないはなしだ”等の意。この第1集以外に下記の用例がある。

- ①妈。您这是哪儿跟哪儿啊。我是来找毛衣的。什么鞋不鞋的。行了行了明天早上起再说。(第9集)
- ②这哪儿跟哪儿、搭不上啊这个。(第26集)

○(你快)给我妈弄出去03-50 04-25 08-29

ここでの《给》は使役動詞で“～させる”の意。

○(我)要睡觉03-53 03-55 06-14 12-119

《要》は“～しようと思う”、“～するつもり”、“～したい”等の意を表す助動詞。『中国語歴史文法』によると《要》のこの用法は唐代ごろから見られるとある。

○公明正大03-55

《公明》ではないが、『朱子語類』卷七三に“聖人所説底話、光明正大”とあり、宋代にはすでに同様の言葉が使用されていたようである。

○潇洒着04—4

《潇洒》は“のんびりする”の意で《着》は継続や持続を表す助詞。《潇洒》については漢語大詞典に明代の用例を載せている。「裸婚時代」にはこの他に下記の2例がある。

- ①对了。老公。今天是我们俩恢复恋爱的第一天。你打算带我上哪儿潇洒去呀？（第11集）
- ②可是你要有了三个孩子、你去想想、三个孩子你还能这么潇洒吗？（第25集）

○（美女）呢04—7

この《呢》は省略疑問文に使われる助詞で元代に見ることができる。張國賓の「汗衫記」第三折に“婆婆、俺那孩兒的呢？”とある。

○是冰块都被我刘易阳融化了04—8

《是》を強く読んで後の《冰块》を強調している。訳すと“氷だって”や“氷でさえも”となり、後の《都被我刘易阳融化了（とっくに俺様劉易陽に融かされているよ）》と繋がる。

- （咱）俩04—13 04—15 04—17 05—10 06—5 07—1 08—22 08—29
10—1 10—4 10—10 10—11 10—26 11—2 11—5 11—6
12—46 12—48 12—116 12—118

《俩》は“二人”、“二つ”等の意。ここでは“僕達二人”の意。元々北京方言に属し清末には使われていたようである。『老殘游記』第15回に“叫他們姐兒倆打開鋪蓋捲睡當中、好不好”とある。

○一不做二不休04—13

“やり出したらからはとことんやる”の意。趙元一の『奉天録』卷四に“光晟臨死而言曰：傳語後人、第一莫作、第二莫休。”とあり、後に“第一莫作、第二莫休”が“一不做二不休”に変えられ使われるようになる。

○把婚结了04—13

《結婚》は離合動詞である。《把》で目的語である《婚》を前にだした形である。

○总04—16 13—10

“結局のところ”、“つまるところ”等の意。この意で使われるようになるのは明代に入ってからのものである。『二刻拍案惊奇』卷十に“自古説、鸛蚌相持、漁人得利。到收場想一想、總是被沒相干的人得了”とある。

○要流氓04—17

“女性に対し猥褻な行為をする”意であるが、60年代までの口語資料には見られないようなので恐らく最近使われるようになった言葉であると考えられる。

○奋头04—20

中国で2007年に放映されたテレビドラマである。建築学院を卒業し凄腕の設計師を夢見た若者陆濤が設計師である父との葛藤を通して成長し自分の大きな夢に向かって努力奮闘する青春ドラマである。32集まで続いたのでかなりの高視聴率を取ったようである。主演は佟大为で監督は赵宝刚と王迎である。

○里头04—21 07—3 10—18

“中”の意を表す方位詞《里》に接尾辞《头》が付け加わったもの。『中国語歴史文法』に“唐五代になると《下頭》《外頭》《裡頭》など、また、《心頭》《街頭》《角頭》(かど)のごとく、名詞についたものもある。”とあり、《里头》に関しては『祖道宗』の用例を挙げている。

○因为04—24 11—5 13—1

通常《因为》の後ろに原因・理由を表す語句が置かれ。“なぜなら～”、“～のために”等の意を表す。この用法は元代の頃から見られる。元曲の『鎖魔鏡』第四折に“因為二郎與那吒神在王、結連環寨飲酒、射破魔寶鏡、走了兩洞妖魔。”とある。

○田阿姨05—3 12—8 12—43

親しい間柄であれば名前を呼ぶことで挨拶の役割を果たすことができる。他の12—8、12—43も同様に名前を呼ぶだけで“こんにちは”を表すような言葉は言わない。

○一表人材05—4

《一表人物》と同じ意で立派な容貌の人を表す。元代にはすでにこのような言葉があり、關漢卿の「望江亭」第一折に“放着你這一表人物、嫁箇丈夫可不好”とある。

○落实05—5

“確かになる”、“はっきり定める”等の意。古い時代の資料には見えないので近代に生まれた言葉であると考えられる。趙樹理の《实干家潘永福》に“庫址没有落实、坝基不能挖、只能先找一些别的活做”とある。また、この語彙はこのドラマの中で使っているのは機関幹部の田淑雲や老魯である。中国では官僚がよく使うようである。

○使劲儿05—10

“力をいれる”、“頑張る”等の意。「裸婚時代」第18集にも“那就一二三、使劲儿、一二三。”とある。

○保险箱05—12

《金庫》の意。“息子を金庫に入れたようなものだ”とは“息子の将来は安泰である”という意味を表す。

○回头05—20

“後で”の意。“ふりむく間に”という意味から派生したものだと思うが、白居易の「春盡日」に“無人開口共誰語、有酒回頭還自傾。”とある。

○根本06—2 12—113

“まったく～”、“全然～”等の意。ただ、この語彙は古い文献には見られない

ようである。近代に入ってから使われるようになったと考えられる。巴金の『寒夜』三に“而且他根本就沒有想到這時候他應該下樓去吃飯。”とある。

○见面06—5 09—9 12—82

《见面》は“顔を会わす”、“会う”等の意である。古くは唐代に見られる。杜甫の詩「十二月一日」三に“春來準擬開懷久、老去親知見面稀。”とある。

○（这）看得我呀06—10

《看得》は“見入ってしまう”の意で訳した。直前の内容に感動したことでの表現であろうと思う。

○踏破铁鞋无觅处06—10

“鉄のわらじを履きつぶすほど探しても見つからない”という諺。

○柳暗花明又一村06—10

柳が鬱蒼と茂る中に花がぱっと明るく咲く美しい春景色のさま。苦境にあって希望が見えてくることの喩え。

○（让我）给碰上了呢06—14 11—6

ここの《給》は無くとも文は成立するが、動詞の前に置くことによって使役の意味をよりきわだたせることができる。

○纸巾07—3

ティッシュペーパーの意であり、形態も日本のティッシュとそっくりである。しかし、この紙の質は日本のティッシュよりも硬く丈夫であり用途も広く今の若い中国人女性は洗顔後に顔を拭くのにも使用するようである。そのため“ペーパータオル”と訳した。

○丢人现眼08—4

恥をさらして人に顔向けができないこと。萧军の『五月的矿山』第11章に“我们没丢人现眼！”とあり、杨朔の『春子姑娘』に“她摇摇头说：‘你看我

弄的婆家婆家不要、娘家娘家讨厌、丢人现眼的、哪有脸见她！’”とある。

○普天同庆08—5

天下の人々がこぞって喜び祝うこと。『晋書』卷二一「志第十一禮下」に“今皇太子國之儲副、既已崇建、普天同慶。謂應上禮奉賀”とある。

○年富力强08—11

年が若くて精力が旺盛であること。『論語』子罕第九に“子曰、後生可畏”とあり、その朱熹集注に「孔子言後生年富力强、足以積學而有待、其勢可畏」とある。

○百步穿杨08—11

百歩離れた所から柳の葉を射止めたという意味の四字成語。『史記』卷四周本紀第四に“楚有養由基者、善射者也。去柳葉百歩而射之、百發而百中之。左右觀者數千人、皆曰善射”とある。

○孕齡08—11

妊娠をするのに適した年齢のこと。ここでは子供を産める年齢と訳した。

○育齡08—11

子供を育てられる年齢のこと。

○从头到尾08—12

《從頭至尾》と同じ意。“始めから終わりまで”の意味を表し、行動などの全過程を指す。『朱子語類』卷十「學四・讀書法上」に“每件須要貫穿、從頭到尾、皆有次第”とある。

○人流08—16

人工流産の略。

○肯定08—16 11—5 13—2

“必ず”、“きっと”等の意。古い文献にみないので恐らく近代に入ったころから使うようになったのかも知れない。浩然の『豔陽天』第105章に“地里長着的麥子、肯定又被這風雨壓倒不少、不晴天、不開風、也要霉爛。”とある。

○嫌弃08—16

嫌悪して近づこうとしない、また見捨てることをいう。『二刻拍案驚奇』卷十二に“陳官人名流貴客、只怕他嫌棄微賤、未肯相収”とある。

○闹08—16

《闹》は“騒ぐ”、“暴れる”等の意。《闹》に関連した言葉に《一哭二闹三上吊》（泣いて騒いで首をつる）という俗語がある。晩清から民国時代ごろの小説にこの句が使用され、既婚の女性が夫や嫁ぎ先に対して騒ぎ立てることを形容した。多くは良くない意味で用いられる。現在は未婚・既婚に限らず、女性が男性に対して駄々をこねたり、騒ぎ立てる意味でも用いられる。これに類似した言葉に《死缠烂打》がある。

○反正08—16 12—61

“どちらにせよ”、“どのみち”等の意である。近代になって使われるようになった語彙のようである。老舎の『黑白李』に“無論怎样吧、反正我知道他現在是很高興。”とある。

○投胎08—16

人や動物が亡くなったあと、再び生まれ変わること。李贄の「與周友山」に“一來蘇家投胎、便不復記憶前身事”とある。

○对着干08—16

“張り合う”、“対抗する”等の意。古い文献に見られないので近代にはいつからの語句かも知れない。

○折磨08—16

“精神的あるいは肉体的に苦痛を与え苦しめる”意。この語彙は唐代の文献

にも見られる。白居易の「春晚咏懷贈皇甫朗之」に“多中更被愁牽引、少裏兼招病折磨”とある。

○准父母的心情08—22

《准》は名詞の前に用いて、不十分ながら同類の事物と見なし得るものを示す。近年では“职场准妈妈应该注意什么？（職場でプレママ〔妊娠中の女性〕は何に気をつけないといけないのか）”のような言い方ができる。ここでは“もうすぐ親になる”と訳した。

○措辞08—25

措辭、話すこと、言葉の使い方等の意味を表す。『逸周書』卷七の「官人」第五十八に“自順而不讓、措辭而不遂、此隱於智者也”とあり、その他、漢代や唐代にも用例が見られる。

○只要08—29 11—8

『中国語歴史文法』によると《只要》は元来“ただ～することを要する”という意味であったとある。また、唐代の用例ではまだ連詞とはなっていない。連詞として用いられた例は時代が降る。《只要》は古い白話では《但》ということが多。また複合語を作り《但使》《但凡》《但須》などと用いるが、現代ではほとんど用いられなくなった。

●不了08—29 10—14 13—1

“～できない”意。動詞の後ろに置き不可能を表す。【特點】

○打住08—30

“止める”意。清代の文献にみえる。『紅樓夢』第75回に“賈珍道、且打住、吃了東西再來”とある。

●给08—30 13—2

この《给》は“授与”の意を表す補語。【特點】

○历经考验08—31

“試練を経験する”意。

●咱不说别的。咱就说08—31 11—10

ここでの《咱》は“おれ”の意。一人称の《咱》は北京方言の言葉である。このドラマの中では見分けがつけにくいだが、ここでの《咱》はその後の言葉から方言であると考えられる。

○实实在在08—35

《实在》のAABB型で“確かに”、“まちががなく”等の意。『中国語歴史文法』によると《实在》の《在》は接尾辞化したものであるが、もとは実際に存在するという意味を表したようである。《实在》は古い文献にもみえる。『宋書』卷八五「列傳第四十五 謝莊傳」に“下官新歲便三十五、加以疾患如此、當復幾時見聖世、就其中煎儻若此、實在可矜”とある。

○头一次08—36

“初めて”、“最初”等の意。《头》は“最も先”、“最も前”等の意。『水滸伝』第51回に“頭醋不豔徹底薄、官人坐當其位、可出箇標首。”とあり、『西遊記』第12回に“酒乃僧家頭一戒、貧僧自為人不會飲酒。”とある。

●合着08—37

“つまり”、“結局”等の意で北京方言。第1集では1例しかないが、「裸婚時代」全体を通してよく見る語彙である。参考までに他の集の用例を紹介すると下記のようなものがある。

- ①那合着您为了证明您那青白、形象都不要了。(第9集)
- ②那合着我一点儿好处都没有啊。(第10集)
- ③我说嘿、不是。合着你那意思、从今儿就开始了。(第12集)
- ④怎么了？这合着就光指望我们阳阳一个人啊。(第19集)

○废话08—37

“無駄な話”という意で古い文献にはみえない。鲁迅の「致〈近代美術史潮

論〉的读者诸君」に“抄完校勘表、头昏眼花、不想再写什么废话了”とある。

○管用08—38

“効果がある”意で古い文献にはみえない。蕭乾の『一本褪色的相册』に“触犯规章、掏名片是不管用的。”とある。

○拓展训练09—1

アウトワード・バンドの意。少年少女・若者に野外や海で冒険的な訓練をさせ、人格の陶冶をはかる組織、その訓練コースのことを指す。

●别说09—2

“言うまでもなく”、“～ばかりでなく”等の意。『中国語歴史文法』によれば禁止の意味に使われる副詞に“いう”という意味の語が複合したものを、累加の連詞として用いたものとあり、『紅樓夢』の例を挙げている。

○女大十八变09—2

『景德伝灯録』幽州潭空和尚に“有尼欲開堂說法。師曰、尼女家不用開堂。尼曰、龍女八歳成佛又作麼生。師曰、龍女有十八變。汝與老僧試一變看”とあり、この中の《龍女有十八變》が転じた言葉である。意味は、女の子は成長過程において容貌も性格も大きく変わること。

○不看看遗传了谁的基因09—3

《不～？》で反語を表す。“～ではないか”の意。

○借口09—5

“言い訳”、“口実”等の意。王若虚の「論語辯惑四」に“人臣畏罪而不言、輒以是借口、曰、上不吾信也”とある。

○模样09—7

“容貌”や“格好”の意で元代の文献にもみえる。開漢卿の「望江亭」第一折に“此處有一女人、乃是譚記兒、生的模樣過人。”とある。

○做～工作09-7

《工作》は“仕事をする”意であるが、ここでは《做+人+工作》の形式で“～を説得する”という意味で用いられている。

○你就这么一堆你09-8

《堆》は量詞。積み上げられたもの、または群れをなした人を数える。ここでは、童母の口数が多いという意味で訳した。

○做回主09-8 10-19

《做主》は“(責任を持って)決定する”意。《回》は量詞。『水滸伝』第4回に“既蒙員外做主、洒家情願做了和尚、專靠員外照管”とある。

○一言为定09-10 09-11

“約束を反故にしない”意。

●急茬儿09-12

北京方言で差し迫っている用事のこと。「北京晩報」2013年2月6日付12面の見出しに“退票窗口来的都是急茬儿”とある。

○熟10-1

“よく知っている”の意。清末の小説『小額』にも見られる。

① “趙華臣說北衙門我不大很熟、讓他們轉求別人。”

② “可巧第二天、在下在一個熟識的藥鋪李健坐、就瞧給我們親戚的那位先生來啦。跟藥鋪裏的人很熟。”

また、宋代にはこの意味で使われていたようである。蘇舜欽「太子太保韓公行狀」に“盡熟山川夷險、道路所出”とある。

●犯不犯困10-2

《犯困》是北京語で“眠たくなる”意。『漢語方言大詞典』に“北京官話”と書いてあり、また『北京語詞典』にもはいており侯寶林の「再生集」に“觀眾一聽就犯困。”とある。

○泡菜萝卜10—2

《泡菜》は四川特産の漬物を指す。恐らく四川風の大根の漬物の意であろうと思う。氷心の『我的学生』に“我們吃著S自制的鹹鴨蛋和泡菜、吃過稀飯、又喝了煎茶。”

○转不过来10—3

《转》は“考えをめぐらす”の意であろうと思う。後ろにくる《不过来》で可能補語の否定を表し、“いくら考えてもわからない”という意であろうと思う。

●指不定什么时间呢10—6

《指定》の否定形で、“～とは限らない”や“～かどうかわからない”の意。北京、東北でよく使用するようである。『北京語詞典』の「劉宝瑞206」に“縣官一聽、把堂鼓都打破了、指不定有多大的冤枉呢。”とある。また、「裸婚時代」第10集と第11集にも次のような例がある。

- ①尤其是那个田淑云啊。她要知道了、指不定甩出什么话来呢。(第10集)
- ②你看。她跟我们招呼也不打东西也不拿、她这样回去了。娘家指不定想在咱们家得受多大委屈。(第11集)

○房款10—6

02で家の立ち退きが話題になる。ここでの《房款》はその話と関連して自治体の政府からでる立ち退きのための費用を指す。

○不在我们刘家住啊10—8

“不…啊？”で反語の意を表し、相手の意見に同意したくない時に使われるようである。

●这儿10—10 10—11 12—48

比較的近い所を指し、“ここ”、“そこ”の意。【特點】

○毕竟10—11

“結局のところ”という意味を表す。唐代には使われていたようである。許渾の詩「聞開江宋相公申錫下世」に“畢竟成功何處是、五湖雲月一帆開。”とある。

○马上10—11 12—20

“すぐに”の意。古くは元代の文献に見える。元曲《陳州糶米》第三折に“爺有的就馬上說了罷”とある。

●住一宿两宿的10—11

《宿》は“xiǔ”と読み、夜や泊を数える量詞である。『百喻經』の「人謂故屋中有惡鬼喻」に“昔有故屋、人謂此室常有惡鬼。皆悉怖畏、不敢寢息。時有一人自謂大膽。而作是言、我欲入此室中寄臥一宿即入宿止。”とある。【特點】

○（不）允許10—13 12—119 13—6

《允許》は“認める”或いは“許可する”意。ここでは条件が許さないという意味で使われている。ただ、この語彙は上の者が下の者に対して使う場合が多い。唐代にはすでに使われていたようである。韓愈の『論孔戣到仕狀』に“臣知戣上疏求致仕、故往看戣。戣為臣言、已蒙聖主允許。”とある。

○慳屈10—13

息苦しくて耐え難いことを表す。古い言葉ではなく現代文学作品に見られる。周立波の『暴風驟雨』第二部二四に“各人都有馬、這就好了、不像往年、沒有馬、可慳屈呀、連地也租種不上。”とある。

○再说了10—13 10—18 10—19 13—2

“それに”、“その上”等の意。『兒女英雄傳』第15回に“我都預備妥當了。再說、既要喝酒、必要說說話兒。”とある。

○伙在一块儿过可以10—13

《伙》は動詞で“仲間になる”意。「裸婚時代」第7集に“你伙着跟我一起作对。”とある。

○瞎～10—19 12—49 12—50 12—69

“でたらめに”、“むやみに”“むだに”等の意。意味の上で《胡》や《乱》と重なるので《瞎说》《胡说》《乱说》等の異形同意の言葉が見られる。ただ、《瞎》は修飾語として他の《胡》や《乱》よりも制限があまりないようである。清末の小説『小額』もその傾向はあるが、この「裸婚時代」にはその傾向は顕著である。その例を下記に並べる。

『小額』；瞎事 瞎猫碰死耗子 瞎鬧 瞎聊 瞎生氣 瞎著急 瞎吹 瞎摸
瞎打聽打聽

「裸婚時代」：瞎做什么主啊 瞎话 这种玩笑能瞎开吗 瞎扯 瞎来 瞎掺合
瞎嚷嚷 瞎谦虚 瞎说八道 瞎说 瞎说话瞎操心 瞎紧张 瞎
搞八搞 瞎玩 瞎争 瞎掰 瞎折腾 瞎猜 瞎琢磨 瞎钻牛角
头 瞎贫 瞎聊 瞎往上冲什么劲儿啊 瞎想什么

また、《瞎》は修飾語として使われるようになったのは明代ごろのようである。『儒林外史』第17回に“接過詩來、雖然不懂、假做看完了、瞎贊一回。”とある。

○轮不到你们女人呢、是不是10—19

《轮不到》は《轮得到》の否定形で“お前たち女の出番にはならない”、“女の出る幕じゃない”といった意である。《轮到》は明代には使われていたようである。『西遊記』第28回に“當年行者在日、老和尚要的就、今日輪到我的身上、誠所謂當家才知柴米價、養子方曉父母恩。”とある。《是不是》はこれまでもでてきたが、話し手に対しての確認を表す。

○執政10—19

もともと国家の大権をにぎることを意味し、『春秋左氏傳』の「襄公十年」に“有災、其執政之三士乎”とある。ただ、ここでは家の主導権を握ることを意味する。

○差不多吧10—20

《差不多》はほとんど同じという意味で明代には使われていたようである。『二刻拍案驚奇』の卷十七に“兩人與聞俊卿意氣相投、學業相長、況且年紀差

不多。”とある。

○开化10—23

《开化》自体は古くからあるが、ここでの保守的でないという意味のものは新しく、近代になって使われるようになったと考えられる。柳青の『創業史』第一部第十一章に“唉、舊社會嘛、人的思想都不開化、貪財愛利。”とある。

○连～也…10—25 13—4 13—8

“～さえも……”の意で、後に《也》や《都》が伴う。『中国語歴史文法』では『朱子語類』の用例を挙げ、このような用法は宋代からであるとしている。

○瞧你10—26

《瞧你》は“ほら”と訳せると思うが、ここでは不満、叱責等の気持ちを示す。《瞧》自体はもともと“盗み見る”という意味で使われ、単に見るという意味で使われるようになったのは清朝に入ってからかも知れない。『兒女英雄傳』第38回に“張姑娘道、姐姐別竟說他一個兒、我們柳條兒也是這麼個毛病兒、不信、瞧我這袖子也給弄了那麼一塊。”とある。

○紧张呼呼10—26

形容詞《紧张》に接尾辞《乎乎》を後置し状態を強調したものであるが、この接尾辞は単音節の形容詞に付くことが多い。“緊張している”意の《紧张》は古い文献に見られないので近代に入って使われるようになった語彙かも知れない。「裸婚時代」第14集に“过来、就喜欢你傻乎乎的样子。”とある。

○(吃完)再走吧10—27 12—48 12—57 12—63 12—110

《再》は“～してから……”という意で使われるようになったのは元代頃からのようである。元曲の『魚樵記』第四折に“劉家女、你欲要我認你也、你將一盆水來、……直等的你收完時再成姻眷。”とある。

○交代10—28 11—6

“釈明する”意。この意味で使われたのは清代に入ってからのものである。

『兒女英雄傳』第1回到“兒女英雄傳的大意都在緣起首回交代明白、不再重敘。”とある。

○火气11-1

怒り、イライラすること。『清平山堂話本』「快嘴李翠蓮記」に“轉來轉去無定相、惱得心頭火氣冲”とある。

○冷不丁11-2

“急に”、“突然”等の意。靳以の『跟着老馬轉』に“他成天地轉、你要找他找不到、不找他的時候、冷不丁地在你眼前冒出來了”とある。

●老11-3

“いつも”、“常に”等の意を表す副詞。『紅樓夢』第61回到“你這一進去、好歹偷幾個杏兒出來賞我吃、我這裏老等。”とある。【特點】

○越多越好11-3

“多ければ多いほどよい”意。《越》については『中国語歴史文法』の中で『朱子語類』の用例をあげている。恐らく宋代頃使い始めたと考えられる。また古代では《愈》を使って同じ表現をしていたようである。

○面冷心热11-4

表向きは冷たいように見えて、心が温かいこと。

○程序11-5

ものごとの順序。刘半农の『実利主義と職業教育』に“使种种实业、依着正当的程序、逐渐进步”とある。

○摊牌11-5

ゲームなどで手持ちの牌やカードを全部見せて勝負をつけること。また事情や状況を全て相手に公開することの喩。毛沢東の「为什么要讨论白皮书」に“争得不得开交了、一派突然摊牌、将自己用过许多法宝搬出来”とある。

○炸猫11-5

“怒る”、“腹を立てる”意。《炸毛》や《參毛》と音が似ていて音通した語彙であり、猫が怒った時に毛を逆立てるような様子を想像させる。

○从长计议11-5

時間をかけてじっくり検討する。《从长计较》ともいう。李行道の『灰闌記』楔子に“且待女孩兒到來、慢慢的與他從長計議、有何不可”とある。

○索性11-6

“いっそのこと”、“思い切って”等の意で《索兴》ともいう。朱熹の『與魏元履書』に“熹看得今日之事、只是士大夫不肯索性盡底裡説話、不可專咎人主”とある。

●杀人不过头点地11-6

直訳は“首を切って人を殺しても頭が地面に落ちるだけだ”であるが、ここでは“人を責めるのも程度があるだろう。”の意。《兒女英雄傳》第16回に“既是你衆人代他苦苦哀求、殺人不過頭點地、如今權且寄下他這顆驢頭”とある。また、この語句は『北京話詞典』にも収められている。

●闪了舌头11-7

俗語。《小心风大闪了舌头》で“話すときは注意して、嘘を言ったり、ほらをふいてはいけない”という意味を表す。また、この語句は『北京話詞典』にも収められている。

○把这脑袋别裤腰带上11-8

俗語。《把脑袋别在裤腰带上》ともいう。常に危険な状態にあることを表す。

●冲着11-8

“～に向かって”の意。【特點】

○二马一错蹬、我仓唧唧唧11-8

大将同士が馬に乗って一対一で交戦している情景をいう。《二马一错蹬》は互いの馬がもつれ合う状態を指す。《仓唧唧》は戦いのときに刃を交える音。

●没正形11—9

北京方言で“まともでない”意。『北京話詞典』には話劇や『駱駝祥子』等の用例を挙げてこの語句を載せている。

○走着瞧11—10

“今に見ておけよ”の意でしばらく成り行きを見守ることを表す。老舎の『駱駝祥子』五に“这样想好、他看大家一眼、仿佛是说：咱们走着瞧吧”とある。

●（我的）天哪12—1

問題や困難なことに遭遇し、人の力ではどうしようもないと感じた時などによく使われる。日本語に訳すとすれば“おやまあ”、“あらまあ”等の意味である。主に北方で使用されるようである。

○准时12—3

“時間通りに”という意であるが、古い文献には見られない。ここでの《准》と同じ意味を使ったものに《准此》がある。《准此》は主に公文書に用いられるものなのでこの《准时》も類似のものであることが想像できる。もともと《准时》も近代になって公文書に用いられたものかもしれない。

○听话12—3

“いうことを聞く”の意である。古い文献に見られないので近代に入って後に使われた言葉のようである。巴金の『关于〈海的梦〉』に“但是她十分善良、老实、而且柔顺听话。”とある。

●帅12—16

“美しい”、“見た目が良い”、“格好良い”等の意。『汉语方言大词典』にこの語彙は北京語で天津、山東、遼寧で使われるとある。『北京語詞典』には邓友

梅の『短編小説選』の用例を挙げている。

○大红袍12—30

中国十大名茶の一つで、武夷岩茶に属す。高級茶として知られる。

○难得12—31

“得難い”意。古くは『禮記』に見る。『禮記』儒行第四十一に“非時不見、不亦難得乎”とある。

○来就来了、你还拿什么东西12—33

“来就来了”の《就》は仮定を表し、直訳だと“来たら来たで”の意になると思うが、前後文から“よく来たわね”と訳した。これに似た表現で“来就来呗。”が「裸婚時代」第24集にもある。

●那儿12—44

比較的遠い場所を指し、“そこ”、“あそこ”等の意。【特點】

○吹12—46

ある事がだめになる意味を表し、ここでは佳倩と易陽が別れることを指す。老舍の『骆驼祥子』一に“一百块、少一分、咱们吹”とあり、田漢の『關漢卿』第一場に“他们的事吹了”とある。

○后来12—47

“その後”の意。また、《後徠》とも書く。『漢書』卷六十の「杜周傳」第三十に“以改前之容侍於未衰之年、而不以禮爲制、則其原不可救而後徠異態、後徠異態則正后自疑而支庶有間適之心。”とある。

○和好12—47

“関係が回復しよくなった”の意であるが、この語彙自体は古い文献に見られる。『管子』「幼官」に“和好不基、貴賤無司、事變日至。”とある。

○拜托12—48

“お願いする”意であるが、この語彙は近代に入って使われるようになったようである。丁玲の『法網』二に“啊翠又拜託了小玉子的媽、請她轉上、海去了在同鄉里邊留留心打聽一下她媽和她妹子的消息。”とある。また、上記の意味以外に“お願いだからやめてよ”というような元の意味から派生したものもある。例えば「裸婚時代」の第14集に“拜托。不是我耗着你成嗎？”とある。

○一下12—48

“突然”、“急に”等の意である。宋代にはこの語彙が使われていたようである。『朱子語類』卷九四に“忽然一下、春來、各自發越條暢。”とある。

○顶在这几了12—48

《顶》は両方がぶつかり合ったことを表し“こんなところで鉢合わせになって”という意であると考えた。

○能不能12—48

依頼を表し、ここでは“～してくれないか”の意である。

○面子12—48

この語彙は清代の文献に見る。『官場現形記』第35回に“這分公貢了禮就托王爺替我們帶了進去。有了王爺的面子還怕上頭不收。”とある。

○你是有事12—48

普通《是》を動詞の前に置かないが、ここでは《是》の後に続く言葉を強調している。

○权衡12—48

“比較して考え判断する”意である。古い文献にも見られる。劉勰の『文心雕龍』の「熔裁」に“權衡損益、斟酌濃淡”とある。

○打我脸12—48

人前で顔をたたかれるのは非常に屈辱的なことであり、“私の顔に泥を塗る”という意味であろうと思う。

○难看12—48

《好看》とは正反対の意味の言葉であるが、清代の文献に見られる。『二十年目睹之怪現狀』第50回に“我在揚州看見張鼎臣、他那上運司衙門是底下人背了包裹、托了帽合子、提了靴子、到官廳士去換衣服的、見了下來、又換了便衣出來。據說這還是好的呢、那比張鼎臣不如的、還要難看呢。”とある。

○瞎话12—49 12—50

“でたらめな言葉”の意。

○权宜之计12—50

“便宜的な処置”の意。『後漢書』「王允」に“卓既殲滅、自謂天復患難、及在際會、每乏溫潤之色、仗正持重、不循權宜之計、是以群下不甚附之。”とある。

○我脸没法处搁12—50

《我脸》の後の構造は“《没》（無い）+《法》（方法）+《处》（ところ）+《搁》（置く）”で“置くところの方法がない”から“置く場所がない”ということになる。《我的脸》（私の顔）“が主語なので人に会わず顔がない”という意になる。

○同事12—50

“同僚”の意である。古代にもこの語彙が見られる。『北齊書』「陳元康」に“先是、世宗仗之數十、吳人性躁、又恃舊恩、遂大忿恚、與其同事阿改謀害世宗。”とある。

○做人12—50

“体面を立てる”意で元代にこの用法を見ることができる。秦簡夫の《東堂老》第三折に“你當初也是做人的來、也曾照顧我來、我便下的要你做傭工”

とある。

○（我说）什么你就听什么12—50

『中国語歴史文法』によると上記のような疑問詞を用いた連鎖句は唐代には見ることはできないとあり、『朱子語類』の例を挙げている。このような用法は宋代から使われ始めたようである。

○使个眼色什么12—50

《使个眼色》は“（考えを伝えるために）目配せする”、“視線をおくる”等の意である。唐代にその用法を見ることができる。呉融の「浙東筵上有寄」の詩に“襄王席上一神仙、使个眼色、眼色相當語不傳”とある。また、《什么》は“～かなんか”の意でこの用法は古い文献には見られないようである。

○按照04—25 12—50

“～に照らして”、“～の通りに”等の意である。清代にその例を見ることができる。『紅樓夢』第95回に“賈政又是工部、雖按照儀注辦理、未免堂上又要周旋他些、同事又要請教他、所以兩頭更忙、非比從前太后與周妃的喪事了。”とある。

○（快点）招呼着你12—65

《招呼》は“呼びかける”意。古代の文献にも見られる。『書』の「立政」に“籲俊尊上帝 孔傳：招呼賢俊與共尊事上天。”とある。《着》は命令を表す助詞である。『中国語歴史文法』によるとこの《着》の用法は北方語のもので唐五代から文献に見ることができるようである。

○该死12—69

“いまいまい～”、“死にぞこないの～”等の意。もともと“死罪にあたる”という意で関漢卿の『救風塵』第一折に“我便有那該死的罪、我也不來央告你。”とある。

○胡说八道12—69

“でたらめを言う”意。類似の言い方は他に《胡説亂道》、《胡説白道》がある。《胡説亂道》が一番古く元代の文献に見える。鄭光祖の『傷梅香』第四折に“我待不言語來、認不得你這般胡説亂道。”とある。《胡説白道》は明代の文献に見える。『金瓶梅詞話』第27回に“單管只胡説白道的”とある。《胡説八道》は清朝末或いは近代に入ってから多用されるようになったようである。魯迅の『故事新編』「出關」に“要是早知道他不過這麼胡説八道、我就壓根兒不去坐這麼大半天受罪。”とある。

○結了12—70

《結婚》は離合動詞で《婚》を省略してこのような表現が可能になる。但し、会話の中だけで許される表現である。

○手芸12—73

“腕前”の意である。もともと“技能”や“芸”の意で唐代にこの語彙が見られる。柳宗元の『梓人傳』に“彼將手藝人之有稱者、而能知體要者歟”とある。

○要不12—82 12—93

“もしそうでなければ”の意である。『中国語歴史文法』では『紅樓夢』の用例を挙げているので、恐らく清代に入ってから用法である。

○聰明12—82

“聰明”、“かしこい”等の意である。古い時代にすでに見られる。『後漢書』の「應奉傳」に“奉少聰明、自為兒童及長、凡所經履、莫不暗記。”とある。

○太生了12—82

《生》は《熟》の逆の意を表す語彙で“知らない”、“慣れていない”等の意。唐詩にこの語彙を見ることができる。王建の「村居即事」に“因尋寺裏薰辛斷、自別城中禮數生。”とある。

○多见几回就好了12—82 12—84

“～就好了”は“～すればよい”という意で“～就可以了”や“～就行了”と置き換えることができる。「裸婚時代」第11集に“适应适应就好了。”とあり、第30集に“他要是打我就好了”とある。

○好久没见了12—84

ここでは“おひさしぶり”という挨拶の意ではなく字義通り“長い間会っていないかった”という意である。

○慢慢12—84

“ゆっくり”、“徐々に”等の意である。後ろの《慢》は第一声に変調し、しばしば儿化される。明代にこの意の《慢慢》が見られる。『水滸傳』の第58回に“呼延灼拍馬上坡、三個勒轉馬頭、慢慢走去。”とある。

○下次12—86

“この次”の意で《上次》の反義語である。元代の文献に見られる。『桃花女』楔子に“都說周公算不着、被人罰了這挑出的一個銀子云、下次再不要他算了。”とある。

○(太) 巧了12—90

《巧》は“うまい具合に”、“折よく”等の意である。唐代の文献にその用例を見ることができる。韓愈の「符読書城南」に“兩家各生子、孩提巧相如、少長聚嬉戲、不殊同隊魚。”とある。

○拿手12—90

“得意である”の意で清末の文献にこの語彙を見ることができる。『二十年目睹之怪現狀』第101回に“這是我這個廚子拿手的一樣精品。”とある。

○糖醋排骨12—90

砂糖、酢、醬油、塩等で調理した甘酸っぱくしたスペアリブ。

○坐不住12—95

動詞+不+結果補語で可能補語の否定形式である。これは不可能を表し、“坐ってられない”と訳した。

○站住12—98

“立ち止まる”という意で、動詞+結果補語の構造である。結果補語の位置にある《住》は“止まる”という意を表す。“立つ”の意を表す《站》は明代の文献に見ることができる。明代以前は《站》でなく《立》が主に使われていた。

○出息12—98

発展する、または気概をみせることを表す。『紅樓夢』第119回に“日後蘭哥還有大出息、大嫂子還要帶鳳冠穿霞帔呢”とあり、『兒女英雄傳』第15回に“我此時倒用得着一件東西、老哥哥可莫笑我没出息兒、還自怕你這裏未必有”とある。

○游戏12—98

“芝居”或いは“遊び”の意である。この語彙は古代の文献に見ることができる。『韓非子』の「難三」に“管仲之所謂、言室滿室、言堂滿堂者、非特謂有遊戲飲食之言也、必謂大物也。”とある。

○玩不下去了12—98

《玩不下去》の構造は動詞+不+複合方向補語で可能補語の否定形式である。《下去》は動作の継続を表す。末尾の《了》は状況の変化を表す。

○(没)看出来我妈在给我介绍对象哪12—100 06—2

《看出来》は動詞《看》+複合方向補語《出来》の構造である。《出来》は識別を表し、全体で“見てわかる”或いは“見抜く”という意を表す。「裸婚時代」の第20集に“我早就看出来了。没事儿。你就是早就烦我了。”とあり、第23集に“人家孙晓烧对你一份心思、一丁点儿没看出来”とある。《在》は進行を表す副詞である。

○作対12—102

“敵対する”意。『東周列國志』第34回に“又怪鄭伯倡議、尊楚王爲盟主、不勝其憤、正要與鄭國作對”とある。

●（你这）整的什么事这是12—107

『汉语方言大词典』によると《整》は《搞》、《做》等の動詞に相当し、東北官話の語彙である。周立波の『暴風驟雨』に“小糜子整起來的破鞋婦女會、無形解散了。”とある。また、第2集にも“我说你还真诚呀你啊？你跟我玩真的、是不是？整这个苦肉计。”とある。

○解釋12—111

“事細かく説明する”意。古い文献に用例がみられる。『後漢書』の「徐防傳」に“解釋多者爲上第、引文明者爲高說。”とある。

○檢討13—1

“反省する”意である。この語彙が使われるようになったのは清朝以後、近代に入ってからのものである。趙樹理の『登記』「眼力」に“人家說咱聲名不正、除不給寫信、還叫我檢討哩。”とある。

○放縱13—1

“勝手気まま”、“わがまま勝手”等の意。古い文献にみえる。『書』の「大甲中」に“欲敗度、縱敗禮。孔傳言已放縱情欲、今人連寫也自厭煩了。”とある。

○窮養兒、富養女13—1

“貧しさで息子を育て、豊かさで娘を育てる”の意味で訳した。

○万万不行的13—1

《万万》は否定詞の前に置き否定を強調する。この語彙は唐代にはすでに使われていたようである。『文子』の「微明」に“患禍之所由來、萬萬無方”とある。

○要飯13-2

“物乞い”の意であるが、この語彙は近代に入って使われるようになったようである。曹禺の『日出』第3幕に“別瞧要飯低了頭、要飯不在下九流。”とある。

○安居才能乐业13-4

《安居乐业》は成語で“落ち着いて暮らし、愉快に働く”の意である。『漢書』の「貨殖傳序」に“各安其居而樂其業、甘其食而美其服”とあり、成語として使われるようになったのは更に時代は降るようである。

○那样的日子13-6

《那样》は程度、方式、性質等を表す。この語彙は清末ごろから使われ始めたようである。『二十年目睹之怪现状』第36回に“我聽了這話、暗想原來是個仕宦書香人家、怪不得他夫人、那樣明理。”とある。

○(不) 忍心13-6

“我慢できない”意である。《忍心》は唐代には使われていたようである。白居易の「酬皇甫史十早春對雪見贈」に“忍心三兩日、莫作破齊人。”とある。

○不甘心13-6

“甘んじない”、“望まない”等の意である。《甘心》は古代の文献に見られる。『詩經』の「衛風・伯兮」に“願言思伯、甘心首疾”とある。

○计划生育13-8

一人っ子政策の正式名称で1979年から始まった中国の人口抑制計画である。

○任何13-8

“いかなる～”、“どのような～”等の意である。近代に入って使われ始めたようである。老舍の『四世同堂』三十に“他的妒心使他不能和任何人合作。”とある。

○怀了孕13—8

《怀孕》は離合動詞なので《了》を《怀》の直後に置くことができる。

○想过没有03—40 05—13 13—8

動詞＋経験を表す助詞《过》の反復疑問文である。後の“考虑过吗？”と同じ意味を表す。

○如果13—8

『中国歴史文法』に“《果》も古代語で仮定の連詞として用いることがあった。これが《如》と複合したものである”とあり、更に『朱子語類』の用例を挙げている。恐らく宋代になって用いられるようになったのだと考えられる。

○流产13—8

この語彙は近代に入ってから使われるようになったものと考えられる。孫犁の『澹定集』の「〈幸运的信件〉序」に“在武斗期間他的愛人不顧家中其他財物、背負這些書籍、信件、過度勞累、以致流產。”とある。

○伤害13—8

この語彙はすでに古代に使われていたようである。『韓非子』の「五蠹」に“民食蠃蚌蛤、腥臊惡臭、而傷害腸胃、民多疾病。”とある。

○只图一时之快、图一己之利13—8

《只》は副詞で動詞の前に置いて“ただ～するだけである”意。《图》は動詞で“求める”意。《一时之快》は“一時の快樂”の意。《一己之利》は“自分一人の利益”の意。全体として“一時の快樂だけを求め、自分のことだけを考えただけ”というような意味になる。

○涉及13—10

“かかわる”、“関係する”等の意。清末頃に使われ始めたようである。『二十年目睹之怪現狀』第91回に“伯芬道涉及外活人的事總有靦瑣。”とある。

○吧13—10

推量を表す助詞

○知情权13—10

“知る権利”という意であるが、最近の言葉であると考えられる。

○尤其13—10

“とりわけ”、“特に”等の意であるが、『中国歴史文法』で元々《尤》自体が“とりわけ”の意を表し、後世《尤》に接尾辞の《其》がついてできたものであることを指摘し、『儒林外史』の用例を挙げている。恐らくこの語彙は明代に使われ始めたようである。

○百般反对13—10

《百般》は“色々な方法で”、“あれこれ”等の意。元代の文献にみえる。関漢卿の『金線池』第一折に“我這門戶人家、巴不得接着子弟、就是錢入龍門、百般奉承他、常怕一個留他不住。”とある。

○是支持还是反对13—10

[是A还是B] 式の選択を表す疑問形式である。『中国語歴史文法』によると元々《还》が唐五代頃から選択疑問に使われ、後世《还是》が1つの語彙のように使われるようになる。『中国語歴史文法』に挙げている《还是》の用例は元曲からのものなので《还是》が1つの語彙となったのは元代頃からのようである。

○实在的13—10

この《实在》は“事実”、“ほんとのこと”等の意であり、早くは宋代の文献に見える。『朱子語類』卷二に“仲思問、如陰陽舛錯兩陽失時、亦可謂之誠乎。曰只是乖錯、不是假底、依舊是實在的人。”とある。

○很不尊重13—10

《很不》は“まったく～ない”の意で全面的な否定を示す。元代にその用例を

見ることができるが、《恨》は当時《眼》とも書かれた。『元典章』の「典章六十・工部卷之三・禁約濫設祇候」に“如今吃飯的人多、種田人少有、久已後眼不便當”とある。

4 日本語訳

01

(劉易陽が童佳倩の会社の前で彼女が出てくるのを見つける)

- 1 佳倩： どうしてそんなすぐに私だとわかったの。
- 2 易陽： 以心伝心というやつさ、だろう。
- 3 佳倩： ねえ、どうして又出張なのよ。
- 4 易陽： しかたないさ。俺だってさっき知らせをもらったばかりなんだ。
- 5 佳倩： じゃ、何日行くの？
- 6 易陽： 一週間。
- 7 佳倩： そんなに長いの。
- 8 易陽： 俺も行きたくないよ。
- 9 佳倩： 他の女の子と話しちゃいけないし、見てもだめだし、番号を交換してもだめ。わかった。
- 10 易陽： わかったよ。
- 11 佳倩： しっかりとご飯も食べてよ。
- 12 易陽： わかったから、チュー。
- 13 佳倩： 服は沢山持った。
- 14 易陽： 沢山持ったけど、大の男がそんな細かいこと考えないさ。
- 15 佳倩： 一週間なのにこんな小さなカバンだけ。不潔じゃない？
- 16 易陽： 大丈夫だよ。ほら、OK かい？

(易陽が携帯で録画の用意をする)

- 17 佳倩： 始めて。ちゃんと撮ってよ。ここよ。他の女の子と話しではいけないし、見てもだめ、番号を交換してもだめ。それとしっかりと食べないとだめよ。わかった？
- 18 佳倩・易陽： ムー。(二人が口づけをする)
- 19 易陽： いいよ。君のこのくどくど言っているのが俺は好きなんだ。まるで若奥さんみたいだ。

- 20佳倩：誰がくどくどよ。これもあなたのためでしょ？
- 21易陽：もういいよ。
- 22佳倩：ねえ、もう一遍復誦して、連絡規則。
- 23易陽：ええ、復誦しなくても。電話は3回コールまでにでること。もし仕事
中なら写メールで仕事してる写真を送ること。ショートメッセージで
の返信は1分以内で。30文字以上の文の場合は、1文字1秒で打つん
だろ。
- 24佳倩：守れる？
- 25易陽：出張でなくてもいつもそうしているじゃないか？
- 26佳倩：口答えして。
- 27易陽：誰が口答えするもんか？ 俺にはそんな度胸はないよ。
- 28佳倩：ちょっと。
- 29易陽：うん。
- 30佳倩：手をまず出して。
- 31易陽：いいものかな。
(易陽が手を出して佳倩がスマートフォンを易陽の手のひらに置く)
- 32佳倩：あげる。
- 33易陽：俺に？ (驚いた様子で) 妻よ、こんなによくしてくれるなんて。小生報
いるものがなく、ただ我が身を捧げるだけでございます。
- 34佳倩：あらあら、そういうことなら、じゃ、仕方ないわね。引き取ってあげ
ましょう。

02

(易陽の母が外出先から戻り、慌てて家に入る)

- 1 劉母：お義母さん、グッドニュースよ。私たち億万長者になるわよ。うちの
洪家園地区がもうすぐ立ち退きになるんですって。一平方メートル当
たり四万円ももらえるのよ。
- 2 劉祖：そんなにたくさんかい。
- 3 劉母：みんなそう言ってるわよ。
- 4 劉父：そ、それは信用できるのか。
- 5 劉母：道の向こう側はみんな取り壊したわ。下の周さんは、ここも三年以内

にはきっと取り壊してしまうだろうって。

6 劉父：でもうちの面積はたかだか十数平方メートルだ。一平方メートルあたり四万元ちょっとなら、億万長者には程遠いぞ。

7 劉祖：四万元くれるからって、そのまま四万元もらうのかい。あんたはばか正直だね。明日にでもちょいと片付けて、洪家園に住んでやろうじゃないの。少なくとも六万元はもらわなくちゃ。あたしを殺したって出ていかないよ。

8 劉父：母さん。やっぱり母さんはさすがだね。俺も一緒に行くよ。

9 劉母：もし停電したり断水したらどうするんです。

10 劉祖：電気や水道が止まっている時間なんて、一生の時間に比べたら大したことないだろう。将来陽ちゃんの結婚はこれで助かるわ。一日多く持ちこたえればトイレを新しく増やすことができるよ。

11 劉父：もしかしたら寝室が増えるかもしれないな、日当たりが良ければ言うことなしだ。

12 劉祖：それはいいねえ。私はね、ベランダに花をたくさん育てたいね。将来は、ひ孫を抱いてさ、外に出なくても家の花園を楽しむのさ。

13 劉父：見ろよ、母さんの嬉しそうなこと。

14 劉母：さあどいてどいて、早く食事の支度にとりかからなきゃ。

15 劉祖：ほんとにめでたいね。良い知らせだよ。

03

(佳倩が自分の部屋で易陽に送る動画を携帯電話で撮っている)

1 佳倩：ダーリン、仕事はもう終わった？ 上海はきれいな人がたくさんいるでしょ。しっかり目を閉じてないと目の玉をほじくり出すからね。分かったわね。

(突然、お母さんが部屋に入って来る)

2 佳倩：お母さん、何よ。どうしてノックしないで入ってくるのよ。びっくりするじゃない。

3 童母：お父さんでもあるまいし、ノックなんて必要ないでしょ。

4 佳倩：そうじゃなくて、あの童建業さんさえノックするのにどうしてお母さんはしないのよ。

- 5 童母：私は母親よ。ノックしないといたらしないの。それがどうしたの？
- 6 佳倩：そんなのおかしいよ。
- 7 童母：佳倩、ところで易陽君とは別れたの？
- 8 佳倩：別れたよ。
- 9 童母：いつ別れたの？
- 10 佳倩：とっくに別れたわよ。
- 11 童母：とっくに別れたって、とっくっていつなのよ。
- 12 佳倩：ていうか。学生の頃だったら恋愛に口出しするのは分かるけど、第一もう大人よ。まだ口を挟んでくるなんてそんなのおかしいでしょ。もう自分で判断できるわよ。
- 13 童母：何が自分で判断できるって。もしそうだったら、口出ししてないわよ。ちょっと、さっき誰にメールを送っていたの？
- 14 佳倩：同僚よ。
- 15 童母：じゃあお母さんが入ってきたらどうして隠すの？
- 16 佳倩：隠してないよ。隠すわけじゃない。
- 17 童母：同僚だったら見せなさいよ。そうしたら本当かどうか証明できるわ。
- 18 佳倩：そんな。どうしてそんなことしないとイケないのよ。
- 19 童母：何がどうしてよ。
- 20 佳倩：お母さんは共産党員でしょ。他人のプライバシーを覗き見していいの？
- 21 童母：プライバシー？ プライバシーというのはね、やましい関係があるからそう言うのよ。
- 22 佳倩：どんな関係だというのよ？
- 23 童母：同僚同士でメールを送るのにプライバシー？ 見られたら困るものでもあるの？ 佳倩、やましいところがないなら見せなさい。後ろめたいことがあるなら見せなくてもいいわ。そうじゃないならもう…
- (お母さんが佳倩の携帯電話を取り上げようとする)
- 24 佳倩：やめて、やめて。だめだって！
- (お父さんが佳倩の部屋に入ってくる)
- 25 童父：お母さん、ちょっと、早く早く。おいでよ。早く早く！
- 26 童母：何よ？

27童父：教育テレビがすごく面白いんだから。

28佳倩：お父さん、どうにかしてよ。

29童父：さあ、行こう行こう。教育テレビが…

30童母：面白いの？ それで何？

31童父：どうしたんだい？

32童母：何を見てるのよ？ あんたのその手口を知らないとも思ってるの？
この子のためを思って言ってるのに、いつも早く見においで、早くって。何を見るのよ、ねえ。そんなことより可愛い娘のことを考えなさい。易陽君とは本当のところ別れたのか別れてないのかまず聞いて。

33童父：そんなことに気をもんでどうしたっていうんだ。うちの佳倩はもう大人だよ。どんな相手が良いか心に決めてるはずだよ。靴が合うかどうかは足だけが知っていると言うだろ。さあ、行こう。

34童母：分かるわけないでしょ。あなたもおかしいわよね。前は違ったわ。あんなに嫁に出すのを渋っていたくせに。何と言っていたか覚えてる？ 娘には一生そばにいてほしいよ。それでないと心配だ。佳倩をこんなに大切にす男はどこにもいないさ。あんなに言っていたのにどうなったの？ あんたの心配性はどこへ行ったの？ どこに行ったのよ。それなのに今や早く追いだそうとしちゃって。ねえ、そうでしょ？

35童父：そんなことないさ。今もそう思っているよ。

36童母：どこが？

37童父：私は易陽君は良い子だと思うがね。うん、良い子だよ。

38童母：どこがいの？ どこが？

39童父：全部良いと思うよ。

40童母：全然良くないわよ。娘がなかなか結婚できなくて、それでやっと捕まえたのが易陽君。あなた、比べてみたことあるの？

41童父：誰と比べるんだい？ まったくわけがわからないことを言うんじゃないよ。

42童母：ほらやっぱり。比べずにすぐに決めたらだめよ。

43佳倩：もう、お母さんやめてよ。

44童父：まったくだ。子供を何だと思っているんだ。

45童母：つまりこういうことでしょ。大学を卒業したばかりで、目の前に広が

る道はなんと広いことか。選ばれようとどれだけの人が待っていると思う。そうでしょ？ 上には上があるのよ。高校生なら付き合うのも遊びみたいなものだから彼でもいいわ。買い物はよく考えてしないといけないのよ。言葉はきついで私が出ていることは正しいでしょ？ もし焦ってバカみたいに何も考えずにデパートで買い物したら、はい終わり。それまでよ。また後でもっと良いものを見つけてもどうしようもできないわ。だから、結婚相手を見つけるのは買い物と同じじゃないのよ。買い物はまだましよ。気に入らなかつたらさっさと捨てたらいいわよ。そんなの大したことないわ。単なるお金じゃない。

46童父：何を言っているんだ？

47佳倩：お母さんお父さん、眠いよ。

48童母：結婚というのは買い物じゃないのよ。

(お父さんがお母さんを部屋から連れ出そうとする)

49童父：はいはい、もういいからまずは…

50佳倩：お父さん、早くお母さんを連れて出してよ。

51童母：まだはっきり聞いてないわよ。一体誰にメールを送っていたの？

52童父：おいおい目が真っ赤だぞ。疲れたろ。

53佳倩：私、もう寝るから。

54童父：早く早く。行こう。

55童母：コソコソしないでどうして見せないのよ。

(お父さんとお母さんが部屋から出て行く)

56佳倩：ドアを閉めてよ！

(扉の向こうでお父さんの声がする)

57童父：疲れただろ。私はもう疲れたよ。

(二人が出て行くのを確認してから、佳倩は同僚に電話をかける)

58佳倩：もしもし、莉莉。代わりに休みを取ってくれない？ ううん、ちょっと用事がある。OK、ありがとう。

04

(佳倩がタクシーから降りる)

1 佳倩：運転手さん、ありがとう。

(佳倩が易陽の泊まるホテルにはいり携帯で易陽に電話する)

2 易陽：もしもし。

3 佳倩：ダーリン、何しているの。

4 易陽：のんびりしているよ。美女をいっぱいはべらせているんだぜ。

5 佳倩：本当。信じないわ。

6 易陽：信じないって。信じないなら来てごらんよ。(ドアのベルが鳴る) ちょっと待って。切るなよ。

(易陽がドアを開けると佳倩が立っている)

7 佳倩：美女は。ちょっと見せてよ。

(易陽は佳倩を部屋に引っ張り込む)

(ホテルのベッドの中で易陽と佳倩が話す)

8 易陽：今回の秘密工作はまたばれちゃったか。八年だよ。氷のかたまりだつてとくに俺様に融かされているぜ。お前のお母さんはどうしてそんなに頑固なんだい。

9 佳倩：そうじゃなくて、何か方法を考えてよ。

10 易陽：方法なんてないよ。

11 佳倩：考えてよ。

12 易陽：俺を愛してる？

(佳倩が黙ってうなづく)

13 易陽：俺も君を愛しているよ。とことんやってこのまま結婚しちまおう。

14 佳倩：だめよ。母が同意しないわ。

15 易陽：お母さんが同意しないからっておいらが結婚できないわけ。

16 佳倩：それでもかけおちなんでできないわ。

17 易陽：かけおちなんかするもんか。結婚を前提としない恋愛なんてのは全部エッチ目的の奴らがすることさ。

18 佳倩：何言っているのよ。

19 易陽：君が前に好きだったあのドラマなんて言ったっけ。

20 佳倩：「奮闘」。

21 易陽：そうだよ。あの家の男女は家の人たちに反対されてどんなふう^に結婚したんだっけ？

- 22佳倩：違うわよ。あの人たちのあれはテレビドラマでしょ。
- 23易陽：テレビドラマがどうした。
- 24佳倩：ドラマを実生活とどうして一緒にできるのよ。私の母は、いや違うわ。
- 25易陽：どうして違うのさ。あのテレビドラマは俺たちに見せるためのものだろう。俺たち庶民もあのようにならう。
- 26佳倩：(大きな声で叫ぶ) だめ、だめ、だめー。
- 27易陽：どうして。じゃ、どうすればいいのさ。
- (佳倩が易陽の顔を見つめる)
- 28佳倩：お腹すいちゃった。
- (掛布団をかぶり易陽は佳倩を抱きしめる)

05

- 1 童母：あら、えらく早く帰るのね。
- 2 老魯：用があつてね。息子が迎えに来たもんだから。毅、田おばさんだよ。
- 3 杜毅：こんにちは、田おばさん。
- 4 童母：毅ちゃん？ こんなに大きくなって。まあ、ほんとに立派になったわね。外で会ってもおばさん絶対わからないわ。
- 5 老魯：そうでしょ、この子こないだ卒業して仕事が決まったばかりなのよ。
- 6 童母：どこなの？
- 7 老魯：ええと、何とかっていう設計事務所よ。ほらあの春何とか通りの。
- 8 杜毅：春風だよ。
- 9 老魯：春風通りのあの…
- 10 童母：良い会社じゃない、普通はなかなか入れないわよ。夫婦で相当頑張ったのね。
- 11 老魯：子供のためなもの。
- 12 童母：そうよね。これで息子を金庫に入れたようなものね。毅ちゃん、あなたさういえばうちの佳倩より2つ上だったわね。
- 13 老魯：そう、2つ上よ。そうだ、佳倩が小さいころ、うちの子の服を着てたことがあったわね。
- 14 童母：そうそう。
- 15 杜毅：もう、母さん。

16童母：毅ちゃん、彼女はいるの？

17老魯：いないわよ。

18杜毅：まだいません。

19童母：そう……ほんと素敵になって。(品定めするように杜毅を見る)

20老魯：またあとで話しましょ。用があるから、もういかないと。

21童母：そうね。早く行って。

22杜毅：田おばさん、さよなら。

23老魯：またね。

24童母：ま、またね。

06

(童家のリビングで佳情の両親がソファーに座り、お母さんが姉と電話で話している)

1 童母：姉さん、いつまで待たせるのよ。ずっと連絡をよこさないじゃないの。焦っているのに。うんうん、分かったわ。はいはい、じゃあそういうことね。ありがとう。

(お母さんが電話を切る)

2 童母：姉さんはね、はじめから佳情のことを気にかけてないんだから。そのくらい私は分かってるわ。相手を紹介すると言ってから一体どのくらいたってると思う？ すぐにごまかしちゃってはっきりと答ええないんだから。あの人は自分のことしか考えてないから、手助けする気なんてちっともないのよ。一生私に頭が上がらないの。やっとのことで娘婿を見つけたから私達より優位になっていて、それで今私達に良い人を紹介して自分が優位に立ってないことを恐れているのよ。そうなんだから。ひと目で分かるわ。

3 童父：そうか。

(お母さんがはっと思い出す)

4 童母：今日、魯さんに会ったのよ。

5 童父：同じ会社なんだから、毎日顔を合わせているんじゃないのか？

6 童母：魯さんの息子にあったのよ。

7 童父：息子がどうしたんだい？

8 童母：毅ちゃんよ。院生…じゃなくて、大学院を出て、今はある研究所に勤

めているらしいわ。あそこは有名よ。良いところよ。給料は他のところより良いしね。一ヶ月少なくとも一万元はもらえるんだから。

9 童父：そうか。

10 童母：しかもあの子はすごくハンサムよ。180センチくらいあって背が高いしね。惚れ惚れしちゃうわ。こんなこともあるものね。血眼になって探していた人がやっとのことで見つかったということよ。

11 童父：何のことだ？

12 童母：それなのにあんたはまったく信じないんだから。

13 童父：おい、完全におかしくなっているな。

14 童母：これも縁というものよ。信じなくちゃだめよ。考えてみなさい。なぜ今日、魯さんの息子が会社に来たのか？ なぜ、私にわざわざ出会ったのか？ どうしてあの時私はわざわざ階段を下りて資料を届けようとしたのか。そうでしょ？ 神様にきちんと決められていることだっているよ。

15 童父：ああ、そうだそうだ。

16 童母：あなたが止めようとしたって無駄なのよ。

17 童父：その通りだな。喉が渴いた。水でも飲むか。

18 童母：本当に運命だわ。

07

(佳倩の家で両親が朝ごはんの支度をしている)

1 童母：ねえ、言っておくけど、あの残りの肉マンはあの子に残しておいてよ。食べちゃだめよ。

2 童父：わかった。

3 童母：どうしたの。佳倩、ペーパータオルがなくなった。あのね、その流しの下の物入れの中にあるわ。

(化粧室で佳倩は検査器を見て妊娠したことを知り動揺する)

4 佳倩：わかったわ。

08

1 易陽：つまり俺が父親になったということか。

- 2 佳倩：声が大きい！
- 3 易陽：なんで小声でいわなくちゃいけないんだ。
- 4 佳倩：恥ずかしいでしょ。
- 5 易陽：何が恥ずかしいんだ。世界中の人が祝う事だぞ、言わなくてどうする
ちょっと、ビール1本。
- 6 店員：他にご注文は。
- 7 易陽：ピザを1枚。肉たっぷりです。
- 8 店員：かしこまりました、少々お待ちください。
- 9 易陽：おい、お前は嬉しくないのか。
- 10 佳倩：喜んでられる？
- 11 易陽：なんで嬉しくないんだ？ 俺は年が若くて精力がある、百発百中だ。
そういうことだろう。考えても見ろ、お前は子供を産める年齢の女だし、俺は子供を育てられる年齢の男だ。そんな男女が出逢って、子供ができたということは全く正常なことなんだよ。世の中には何年頑張っても子供ができない人は多いんだぞ。
- 12 佳倩：あなたはホントに嬉しそうね。あなたは上海でも、ベッドの上でも、
ずっと一人で喜んでたわ。私はちっとも嬉しくない。
- 13 易陽：あの時はお前もよろこんでたじゃないか。
- 14 佳倩：ちょっと、やめて！
- 15 易陽：わかったわかった。
- 16 佳倩：あなたは中絶がどれほど痛いか知ってるの？ 私、痛いのは本当に嫌なのよ。何笑ってるの。手術したら、もう子供が産めなくなるかもしれない。そうなったらあなたは絶対私を捨てて、別の女と結婚するわ。そんなことしたらあなたの家で暴れて死んでやる。あなたの家の場所は知ってるんだから。お化けになってとりついてやるわ。いえ、あなたの娘として生まれ変わってあなたに反抗して、苦しめぬいてやるんだから。
- 17 易陽：ちょ、ちょっと違うだろ。どこまで話してたんだっけ。いつの間にこんな話になったんだ。
- 18 佳倩：私がどこまで話したっていうの。あなたは年が若くて百発百中なんですよ。じゃあ乾杯しなきゃいけないじゃない。

19易陽：違うだろ、待てよ。ストップストップ！ お祝い事がなんでこんな話になってるんだ。もうちょっと話を前に戻そう。さっき言ったのは……

20佳倩：もういいわ。すみません、グラスを1つください。

21易陽：何するんだ。

22佳倩：少なくとも今だけはもうすぐ親になる気持ちになってお祝いしましょう。

23易陽：何を祝うんだ。

24佳倩：（ビールとグラスを受け取る）ありがとう。

25易陽：いや、ちょっと待って。お祝いすることはお祝いするが、お前の言い方は変だぞ。今だけって何だよ。もう決めたじゃないか。

26佳倩：何を決めたっていうの。

27易陽：子供だよ。

28佳倩：易陽、我慢しなくていいのよ。今あなたが私みたいに緊張して、怖くなっていてもいいの、気持ちはわかるわ。誰にでも初めてはあるのよ。

29易陽：そうだ、確かに突然の出来事に驚いたさ。でもこれだけはきちんと言っておく。俺もさっきは嬉しかった、幸せだし、興奮したさ。佳倩、俺が高校のときにお前に言っただろ。俺はまだ覚えてるぞ。俺たちが将来結婚したら、子供をたくさんたくさん作ろうと言っただのを。今はまだ法に則っていないだけじゃないか。法に則ってしまえばそれで終わりだろ。ただ、今の俺は条件も悪い。昔お前を追いかけまわしてた奴らや、将来のビジョンがあってお前に近づいてくる奴らとは、経済的には差があるのは認める。俺は物質的にはお前を幸せにできない。車はないし、金もない、家もないし……。

30佳倩：もういいもういい。故宮に部屋が沢山あるからって、故宮と結婚できる？

31易陽：まだ話し終わってないぞ。俺はお前とは長い間ともに苦労してきた同志みたいなものじゃないか。余計な話はやめて、俺の生涯の努力目標について話そうじゃないか。

32佳倩：努力目標って何よ。

33易陽：俺の目標は、佳倩、お前を幸せにすること、家族全員、一家代々幸せに暮らすことだ。

34佳倩：ほんと？ 全然知らなかったわ。

35易陽：男子たるもの、こんな話は口先だけで終わらせることはできないものさ。幸福とは何か。幸福とは口に出して表現するものではない。自らが実際に作り出していくのが幸福なんだ。

36佳倩：ダーリン、分かった。信じる、あなたの言ってること全部信じるわ。ダーリン、私は本当に心からあなたを愛してる。あなたに会えたこと、初めての恋があなただったこと、本当に運が良かったと思ってる。大丈夫よ、私もう怖くなんかないわ。ほんとよ、痛いのも全然怖くないんだから。

37易陽：……つまり俺は今まで延々と無駄話をしてたことになるな。

38佳倩：違うの、そういうことじゃなくて。ほんとに痛いのも怖くないの。信じて、ダーリン。あなたの慰めはとっても効き目があったのよ。あなたの話がすごくすごく効いたんだから。

09

1 童母：見て。これは佳倩が卒業する時に学位マントを着て撮った写真よ。それからこれは北戴河に家族全員で遊びに行った時のもの。こっちのは野外訓練に参加した時のよ。

2 老魯：女の子は成長するたびに変わると言うけれど本当ねえ。

3 童母：そうでしょ。誰に似たと思っているのよ。

4 老魯：いいわよ。じゃあ、帰って杜毅に言ってみるわね。もしお見合いしたいと言ったなら、すぐに…

5 童母：言い訳しないでよ。

6 老魯：どうしたの？

7 童母：承知するかどうかだなんて。うちの佳倩は毅ちゃんとはつり合わないところなんて1つもないわ。大学は出ているし器量は良いし。でも実は、まだ娘を説得しないとイケないのだけれどね。

8 老魯：私が何か言ったら、あなたときたらその十倍は返してくるんだから。いいわ、今日は私が責任を持って杜毅に代わって決めるわ。

9 童母：そういうことで決まりね。今晚7時、うちで会いましょう。

10 老魯：じゃあ必ず。

11 童母：絶対よ。

12 老魯：焦っちゃって、もう。

10

(劉家の居間で易陽と佳倩が易陽の家族と話をする)

1 易陽：お父さん、お母さん、おばあちゃん、佳倩は赤の他人ってわけじゃないよね？ こんなに何年も、もう家族同然だよ。それで、今日は僕ら二人にあることがあって帰ってきたのさ。僕ら家族でちょっとわかちあおうって。できちゃったんだ。僕らは結婚しようと思うんだ。

2 劉母：あっらー、佳倩、妊娠したの？ へーもうこれはねえ、今腰がだるくない？ 眠たくないかい？ お腹に陽ちゃんができるときは、日も暮れていないのにもうとうとうしていたわ。四川風大根の漬物を食べたくて食べたくて仕方がなかった。あるときなんかは、夜に一睡もできなかったわ。ねえ、こんな感覚ない？

3 劉父：易陽よ、これは突然すぎるぞ。こりゃ俺たちの頭ではすぐに答えはだせないなあ。

4 易陽：このことについてはそんなに考えなくていいよ。これは突然の事でもないんだ。こんなに何年も付き合っていてどうして突然なのさ。お父さんは考える必要なんてないさ。僕ら二人でもうちゃんと考えてあるんだから。僕ら当事者が同意したんだから。今日も帰ってきたのは家族に報告するためなんだ。

5 劉父：報告だって？

6 劉母：お父さんが言いたいのはね、こんな大事な事なんだから何にしても準備ってものが必要よ。そうでしょ。ほら、結婚するには住むところだって必要だし。いや違うわ、あの洪家園は壊してよそに移すというけれども、いつになるやらわからないわ。立ち退き料がおりてから新しい家を買ってあげるわ。

7 佳倩：いいえ。おばさん、この事は心配いらないわ。彼と相談して決めてあ
るの。まず部屋を借りて住もうかって。

8 劉母：部屋を借りる？ この家に住まないの。

9 祖母：部屋を借りるってかい？

- 10佳倩：ここはせまいじゃない？　そして私たち二人がここに住むには不便だわ。そう思いませんか？
- 11易陽：お母さん、僕ら二人の考えはね、え～とね、こうなんだ。つまり僕らはまだ若いでしょ。新婚の夫婦ですぐに子供もできるんだ。特に自分たちの生活の事を考えてのことでこんな大勢でお互い気兼ねし合うことを避けるためじゃないか。でもね、安心してよ。僕らは、結婚してもしなくても同じだよ。僕らはやっぱりしょっちゅう見に帰ってくるし、しょっちゅうここにいることだってできるよ。それはひと晩ふた晩のことなんだから、そうでしょ？
- 12祖母：家族いっしょに長年くらしっていて気兼ねなんてまったくなかったのに。結婚したとたんに気兼ねするなんてねえ。
- 13易陽：おばあちゃん、僕の考えはね、こんな大家族と一緒に住むのは不自由だよ。そうでしょ？　第一に僕らの家族がこれを許さないというなら、僕の部屋なんか僕一人でも息が詰まりそうなのに彼女が来たら狭くって死んじまうよ。それに一年も経たないうちに子供が生まれてくるんだ。こ、これでどうやってくらすんだい。くらせないよ。80年代なら一緒になって暮らすのもいいけれど。もう21世紀なんだよ。おばあちゃん、その考えはほんとにかえなきゃならないよ。
- 14祖母：22世紀になってもかえる気はないよ。
- 15易陽：おば、おばあちゃん。お父さん、なんとか言ってよ。
- 16劉父：童ちゃん、なあ親御さんはこの事どう思っているんだい？
- 17佳倩：はあ。……
- 18劉母：ねえ、佳倩ちゃん、こうしたら、おばさんが責任をもつわ。あんたたちが結婚するんなら、この家に住まないよ。そうすればおばさんらも面倒ぐらい見られるわ、そうでしょ？　それにね、あんたはもうおめでたなんだから。そう思わない？
- 19劉父：あのお、いいから、いいから、おまえはいいから。この事はまだよくわかっていないんだ。軽々しく責任をとるなんていうんじゃない。俺が一家の主なんだ。おまえら女のでる幕じゃない。そうだろう？　童ちゃん。童ちゃんの家もお父さんが家の実権をもってんだろ。
- 20佳倩：ええ、そうですね。

21劉父：ほらな。何だったけ。じゃっ、親御さんはこの事をどのように考えているんだい？

22佳倩：特になにもありません。

23劉父：はあ、妊娠で大事なことになるにもないのか。ほおー、じゃ、君の親御さんもたいそう進んだ考えだな。

24佳倩：ちがうわ。知らないのよ。

25劉父：ええ、し、知らないだって。じゃ、お前たちが結婚しようということさえもまさか親御さんはしらないってことはないだろうな。

26易陽：あ～、お父さんときたら、もう、ほら、佳倩が緊張してこわばちゃったじゃないか。こうなんだよ。劉家の気持ちを尊重してどうしても先に男側の家族にこの事を知ってもらおうと思ったんだよ。後で彼女っちに行くんだ

(易陽の父は我慢できず自分の部屋へもどる)

27劉母：佳倩ちゃん、おばさんは晩御飯をつくるけど、食べてからいったら。

28佳倩：いいえ、おばさん。やめときます。だってまだ家に帰って親に説明しないといけないから。

29劉母：説明？

30佳倩：いいえ、知らせるの。

31劉母：陽ちゃん、終わったら帰りなさいよ。夕飯をのこしておくから。

11

(易陽と佳倩が易陽の家へ行く途中での会話)

1 佳倩：あなたの家族はどうしてあんなに怒ってるのよ。

2 易陽：俺たちの結婚のことを突然受け入れろと言われても、そりゃみんな困るよ。

3 佳倩：私なら二人で暮らす方がずっといいわ。なのになんで年寄りたちは家族の多い方がいいと思うのかしら。トイレに行くのに並ばなきゃいけないなんて嫌じゃない。

4 易陽：そりゃそうさ。俺もそう思うけど、年長者の考えは俺たちが理解しないと。おばあちゃんはああ見えて、心は優しい人なんだ。家に帰ってよく話し合えば、きっと大丈夫さ。

- 5 佳倩：だめだめ。あなたの両親はまだうちのお母さんみたいにひどく反対してないでしょ。あなたのお母さんは順序が違っててから怒ってるのよ。もし私の母さんに何もかも打ち明けたら、きっと大激怒するわよ。このことは勢いにまかせないで、よく考えて、しっかり相談しなきゃ。
- 6 易陽：おい、これは遅かれ早かれ俺たちが直面する問題だ。いっそ思いきって大嵐の来るにまかせて、俺たちはしっかりした対策ともしものことを考えておくのはどうだ。人を責めるにしても程度があるだろう。俺はお前の家に行って、お前の父さんと母さんにこのことをはっきり説明する。必ずご両親を俺の理想と変わらぬ強い愛情で感動させてみせるさ。
- 7 佳倩：ちょっと、口から出まかせはやめなさいね。
- 8 易陽：嘘じゃないさ。お前の父さんと母さんに会えば、命がけでしっかり向き合って一戦交えるよ。もしお前を連れ帰らせてくれないなら、俺の首を記念に残していくと言うんだ。どうだ？
- 9 佳倩：あっち行ってよ。まともじゃないわ。
- 10 易陽：まだ俺を信じないんだな、今に見てろ。

12

(佳倩の家での会話)

- 1 童母：あら、大変だわ。佳倩に電話したの？
- 2 童父：かけたさ。今、帰り道だからもうすぐ着くよ。
- 3 童母：あの子ったらなんてわからずやなのかしら。今日は仕事が終わったら時間通りに帰ってくるように言ったのに、それなのに言うことを聞かないんだから。(呼び鈴が鳴る) 魯さん？
- 4 老魯：私よ！
- 5 童母：はいはい！
- 6 童父：早く早く早く！
- 7 童母：はいはい、ただいま！
- 8 杜毅：田お婆さん、こんにちは。
- 9 童母：杜毅、いらっしゃい！
- 10 老魯：あなたのために息子を連れてきたわよ。どうかしら？

11童母：もちろんいいわよ。

12老魯：あら、童さん！

13童母：早くいらっしゃいよ。杜毅よ。

14老魯：童おじさんよ。

15杜毅：童おじさん、こんにちは！

16童母：どう？ ハンサムでしょ？

17杜毅：ほんの気持ちですがどうぞ。

18童母：あら、何かしら？

19老魯：佳倩は？

20童母：帰って来ているところよ。もう戻ってくるらしいわ。

21童父：そうなんだよ。

(呼び鈴が鳴る)

22童母：あら、帰ってきたわ！

23佳倩：お母さんお父さん、ただいま。

24童母：佳倩、お帰りなさい。

25佳倩：魯おばさん、どうして来てるの？

26童母：え、劉君、あなたまで来たの？

27易陽：はい、田おばさん。

28童母：そうそう、早く、あの、えー、大急ぎでお茶を入れに行かなくちゃ。

(佳倩に向かって) 魯おばさんのお相手をしなさい。

29童父：どうぞ、どうぞ中へ入ってください。

30童母：大紅袍よ。大紅袍。

31童父：こんな機会はめったにないんだから。はいはい、どうぞ。遠慮しないで。荷物は置いてください。

32易陽：おばさん。

33童母：あら、よく来たわね。それでまた何を持ってきたの？

34易陽：おばさん。俺、まだ靴を脱いでいないんですけど、おばさん。

35童母：動いたらダメよ。そのまま立っていなさい。(佳倩に向かって) 佳倩、杜毅のことを忘れちゃった？ 小さい頃一緒に遊んで、この子ったら毅ちゃんのお下がりまで着ていたんだからね。

36佳倩：わかってるわ。

37童母：えーと。

38老魯：こっちは構わないでいいわよ。

39童母：食事の支度をしてくるから。あなた、急いでお茶を。

40童父：そうだそうだ。

41童母：早く座って、座ってよ。

42童父：どうぞどうぞ。座ってください。私がお茶を入れるから。どうぞどうぞ、私が。

43老魯：佳倩、久しぶりね。

44童母：魯さん、先にそっちでお茶を飲んでいてね。(易陽に向かって)あなたどうして来たのよ。

45易陽：おばさんに会いに来ました。

46童母：あなたたちはとっくに別れたんじゃないの？

47易陽：また付き合い始めたんです。

48童母：易陽君、おばさん今日は本当にお願ひしたことがあるの。いいかしら？ あの男の子はね、佳倩のことがずっと好きなの。好きで好きで仕方がないのよ。分かるわね？ だから今日おばさんがあの子たちを合わせるためにセッティングしたのよ。まさかあなたが来るなんて知らなかったから。あなたのことで私の計画が台無しになるのよ。ね、今日はおばさんの顔を立ててもらえる？ 結婚していて家族があると言っただね。佳倩に今日は用事があるってあなたが送りに来たと言っただね、いい？ 荷物が重くて運べないから手伝ったとね。それから、えーと、ひとまずあなた達のことは置いておいて、みんなが帰ったらきちんと考えるから。ね、いいわね？ 今日はお願ひ。本当にお願ひ。私の顔をつぶさないでね。こんなことが知られたら本当に無様だわ。分かったわね。

49易陽：じゃあ、嘘をつけと言うんですか？

50童母：嘘じゃないわよ。融通をきかせるということよ。分かる？ じゃあ今この状況をどうしろというの？ 私の顔に泥を塗らないでよ。あの人は長い付き合いの同僚なんだから。もし、このことが明日職場ですべてが知られたら、もうおばさん生きていけないわ。ね？ お願ひよ。そういうことでいいわね。私が言うことは何でもはいはいと聞いて、

目配せなんかもするからそのように動いてね。分かった？

51老魯：田さん、何してるの？ いらっしゃいよ。

52童母：(易陽に向かって) ね、そうしましょう。はいはい、今行くわ！ はい、魚よ。

53童父：おー。

54童母：どうぞどうぞ。

55易陽：おばさん。

56童母：あ、劉君、あの、家の用事があるのなら引き止めないから、ね。ありがとう、佳情を送ってくれて。

57童父：いやいや、劉君、こっちへおいで。用事はすんだんだから一緒に食べようじゃないか。食べてから帰りなさい。

58童母：用事があるのよ。

59佳情：座って食べたら。

60童父：な。

61童母：そうね、いいわ。食べて帰ってもすぐ帰っても同じなものね。

62童父：ほら。

63童母：食事の時間でもあるしね。あの、食べてから帰ったらいいわ。座って座って。ほらほら、早く、座りなさいよ。遠慮しないで。はいどうぞどうぞ。

64佳情：お母さん、何してるのよ？

65童母：ねえ、魯さん、どうして箸を動かさないのよ。二人とも。ほら、杜毅。(夫に向かって) 早く取り分けて差し上げなさいよ。

66童父：お、そうだなそうだな。食べてください。

67童母：どうしたの、魯さん？

68老魯：ねえ、田さん。彼はボーイフレンドだって佳情が言ってたわ。

69童母：誰が？ 誰の？ まったくこの子ったら、そうなりただけでしょ。でたらめを言って。そんな冗談をむやみに言うものじゃないわよ。そうじゃなくて実はこうなのよ。彼はもう結婚してるの。そうよね、劉君。

70易陽：はい。僕は佳情さんの同僚です。

71童母：ほらね。佳情もそうなりただけなのよ。

72佳倩：同僚？

73童母：さあ、早く食べてよ。杜毅、杜毅、早く食べて。おじさんの手料理よ。
おじさんが作ったんだから。

74老魯：本当に、やっぱり童さんの腕前はすごいわね。

75童母：そうでしょ。

76老魯：こんなにたくさん作ってくれて。

77童母：ほら、早く食べましょうよ。早く。

78老魯：じゃあ、遠慮なく頂くわ。

79童父：はい、食べて。

80杜毅：いただきます。(佳倩のために魚をとってあげる) はい、食べて。

81佳倩：私、魚は嫌いな。易陽、食べてよ。

82童母：あなた、魚が一番好きじゃないの。あなたが嫌いだったら他に誰が食べるのよ。佳倩は魚が一番好きなのよ。それでなかったらこんなに賢いわけないじゃないの。そうね、まだ慣れてないからね。小さい頃は一緒に遊んだけど、大きくなってからそんなに会ってないんだものね。これから度々会えば良いのよ。

83童父：そうだそうだ。

84杜毅：随分会っていなかったから。おいおい親しくなればいいですよ。

85老魯：そうよ。仲良くなった方がいいのよ、仲良くね。そういえば、佳倩、杜毅は料理もできるのよ。そのうち、うちへいらっしゃい。杜毅に作ってもらったらいわ。何が好き？

86杜毅：そうだね、次はうちへおいで。僕が…

87老魯：そうよ。

88佳倩：好きな食べ物なんてないわ。

89童母：好きなものがない？ あなた、あれが好きじゃない、甘酢あんかけとか。

90老魯：甘酢あんかけ？ それは偶然ね！ 杜毅はね、スペアリブの甘酢あんかけが一番得意なのよ。そうよね、杜毅。

91杜毅：うん、そうなんだ。

92佳倩：じゃあ、大嫌いなのはスペアリブの甘酢あんかけよ。ていうか、第一肉が歯に挟まってとれないんだもの。ね、易陽。

- 93童母：劉君はあなたの話が耳に入らないみたいよ。劉君、どうかしたの？
家のことが心配なんでしょ？ 奥さんが一人で待っているのよね。食べ終わったら先に帰りなさいよ。
- 94佳倩：まだ早いじゃない。食べてないし。
- 95童母：まあ、送ってくれたんだからそれでいいじゃない。気にかかることがあるのに引き止めるんじゃないわよ。あー、劉君、ありがとうね。易陽君、じゃあ先に…
- 96佳倩：それならいいわ。私、食べない。送るわ。
- 97童母：送るって何よ。同僚でしょ？ あなたは座って魯さんのお相手をなささい。ほら、劉君、私が送るわ。
- 98佳倩：ちょっと！ 待ちなさいよ！ お父さんとお母さんにあったらしっかり向きあって、一戦交えると言っていたんじゃないの？ あんたはどうしてそんなにだらしのないのよ！ お母さん、易陽にどんな話をしたのかわからないけど、どっちにしてももうこんな遊びにはこれ以上付き合っていられないわ。魯おばさん……彼は私のボーイフレンドです。もうすぐ結婚します。
- 99易陽：いえいえいえ。
- 100佳倩：何が違うのよ！ ちょっと！ 目の前でお母さんがわたしに相手を紹介しているのが見えないの？
- 101童母：佳倩、あなたは私に反抗するために生まれてきたんでしょ！
- 102佳倩：私が反抗してるんじゃないわ、お母さんが私につっかかっているんでしょう？
- 103童母：魯さん。
- 104佳倩：私、妊娠したの。易陽との子よ。
- 105易陽：俺、先に帰ります。
- 106佳倩：あんたはどうしてそんなに情けないの。
- 107老魯：田さん、これはどういうことよ！ これは…
- 108杜毅：母さん、もう行こう。
- 109童母：魯さん。
- 110童父：魯さん。あの、魯さん、もう一口食べて。もう少し食べてから帰られたらいいじゃないですか。

- 111童母：魯さん、あのね、話を聞いてちょうだい。
- 112老魯：もういいわ。
- 113童母：まったくそういうことじゃないのよ。
- 114老魯：もういいの。
- 115童母：聞いて…
- 116童父：私が、私が送りますよ。あのね、今日のことはまったくの誤解なんですよ。あの子達は…
- 117童母：(佳倩に向かって) さっき何て言った？
- 118佳倩：妊娠したと言ったのよ。私達、結婚するから。だから今日は易陽を連れて報告しに来たの。
- 119童母：私は許さないわ。許さない。絶対に許さないからね！

13

(夜、佳倩の家で佳倩の両親が佳倩と易陽に話す)

- 1 童媽：今日私は非常に厳しい自己批判を行わなければなりません。娘を放任しすぎたわ。男は質素な生活の中で育て女は豊かな生活の中で育てるとこの観念を間違って理解していたわ。娘に最高のものを与え、衣食に不自由させないでいたら、ひとかけらのケーキのために他人といっしょに離れていってしまうようなことはないと思っていた。だ、だけど娘に言うのを忘れていたわ。ケーキも買えないような暮らしはやっていけないんだってこと、絶対にだめなんだってことを。
- 2 佳倩：お母さん、劉さんに嫁ぐんであって、ものもらいにいくんじゃないのよ。どうしてそんな悲惨なことを言うの。それに、私たちはこれから先きっと今よりもずっと幸せよ、そうでしょ。(易陽を肩でつつく)
- 3 易陽：まあ。
- 4 童母：人がよく言うわ。家を持ち落ち着いた暮らしをしてはじめて楽しく働けると。あなたたちは落ち着いた暮らしをする家さえもないのよ。楽しく働くことなんて到底無理よ。どこで楽しく働くのよ。
- 5 易陽：いいえ。おじさん、おばさん。実際は僕と彼女とは落ち着いた暮らしはできるんですよ。今外では賃貸で暮らしている若者は多いんです。僕ら二人だけじゃないんですよ。

6 童母：そ、そとで借りたい人は借りればいいわ。私は自分の娘がそんな暮らしをするなんて許さないわ。耐えられないし喜べるもんですか。

7 童父：落ち着いて。ほら。落ち着いて。

8 童母：思想政治の仕事をしているものであり、また役所で計画出産の仕事まで任されてもいるのに、自分の娘の思想教育さえもきちんとできていなかったうえに娘の出産計画さえもきちっとできていなかったのよ。一人女の子が何も考えずに身ごもってしまって、どんな結果が待っていると思う。考えたことがあるの？子供に問題はありますか。あなたたちは考えたことがあるの？もし子供に問題があれば、母親は流産しなくちゃならないのよ。これが、は、母親にどれだけの傷を負わせるか。あなたたちは考えたことがあるの？ないわよね。あなたたちはその時だけの快樂と自分達だけのことだけしか考えてないのよ。これがやりたいほうだいじゃなかったら何なの。

9 童父：み、水でもちょっと飲みなさい。

10 童母：婚姻のような大きな事であれば、私たち親も知る権利があるべきよね。特に親が何度も反対している中で佳倩は妊娠してしまったのよ。易陽君あなたの親御さんは知っているの？あなたの親はどういうつもりなの？賛成しているの、それとも反対なの？娘をあずかる親としては、傷つけられた感じよ。まったく尊重されてないわ。

5 索引

A

○(田) 阿姨05—3 12—8 12—43

○安居才能乐业13—4

○按照04—25 12—50

B

○把婚结了04—13

○把手先伸出来01—29

○把这脑袋别裤腰带上11—8

○吧01—2 13—10

○百般反对13—10

○百步穿杨08—11

○拜托12—48

○保险箱05—12

○毕竟10—11

○必须01—23 13—1

○憋屈10—13

●别（让我看）03—23 04—6 13—7 07—1 08—20 08—28 09—2
09—5 10—4 11—7 11—10 12—31 12—35 12—74
12—95 12—112 12—114 13—7

●别说09—2

○不…吗？01—20 03—41 04—25 06—1

○不错03—37 12—74

○不看看遗传了谁的基因09—3

○不在我们刘家住啊10—8

●不了08—29 10—14 13—1

C

○彩信形式01—22

○差不多吧10—20

○拆迁02—1

○程序11—5

●冲着11—8

○出息12—98

○吹12—46

○聪明12—82

○从长计议11—5

○从头到尾08—12

○措词08—25

D

○打我脸12—48

○打住08—30

○大红袍12—30

○~的话01—34 03—12 03—17 08—16 08—38 11—3

●得03—45 04—25 08—18 08—35 09—7 10—6 10—13 10—18
10—28 11—3 11—4 11—5 11—6

●(一) 点儿01—17 02—14 05—2 06—2 06—17 08—2 08—12 08—36
09—7 11—2 11—6 12—28 12—48 12—65 13—9

○顶在这儿了12—48

○顶嘴01—25

○丢人现眼08—4

●都03—12 10—18 12—20

○(你就这么一)堆(你) 09—8

○对着干08—16

○多~03—45 08—11 08—16 11—3 12—3 12—48

E

○二马一错蹬、我仓唧唧唧11—8

F

○反正08—16 12—61

●犯不犯困10—2

○房款10—6

○放纵13—1

○废话08—37

○奋斗04—20

○福利01—30 06—8

G

○该死12—69

○(不)甘心13—6

●赶紧03—34 12—28 12—39 12—73

●赶明儿02—7

○干吗(呢) 03—2 03—24 03—33 04—3 08—21 12—64

●给08—30 13—2

●给谁发信息呢03—13 03—17 03—51 06—2 07—1 08—20 10—6
10—31 12—1 12—10 12—17 12—50 12—85 12—100
12—111

○(你快)给我妈弄出去03—50 04—25 08—29

○(让我)给碰上了呢06—14 11—6

●跟**01—9** 01—17 03—23 03—37 03—45 06—2 06—10 06—14
07—1 08—16 08—29 09—14 10—4 10—7 10—28 11—4 11—5
11—6 11—8 12—3 12—69 12—98 12—101 12—102 12—102
12—111 12—115 12—116

○根本**06—2** 12—113

○公明正大**03—55**

○做~工作**09—7**

○关键**03—12** 12—92

○管用**08—38**

○鬼**03—23**

H

○还不…? **01—15** 03—45 04—15 05—11

○（是支持）还是反对**13—10**

○好好儿**01—11** 11—4 11—5

○好久没见了**12—84**

○和好**12—47**

●合着**08—37**

○很不尊重**13—10**

○后来12—48

○胡说八道12—69

○玩不下去了12—98

○话丑理端03—45

○怀了孕13—8

○回头05—20

○火气11—1

○伙在一块儿过可以10—13

○货比三家03—42

J

●急茬儿09—12

○计划生育13—8

○检讨13—1

○见面06—5 09—9 12—82

○讲究01—14

○交代10—28 11—6

○结了12—70

○解释12—111

○借口09—5

○紧张呼呼10—26

○（多见几回）就好了12—82 12—84

○就是01—19 03—45 04—25 05—7 06—2 06—14 08—29 08—33
10—1 10—4 10—69 10—71 12—92 12—118

K

○（没）看出来我妈在给我介绍对象哪12—100 06—2

○（这）看得我呀06—10

○开化10—23

●靠谱02—4

●可~02—6 13—1

○肯定08—16 11—5 13—2

○快~了02—1 12—2 12—18

L

○来就来了、你还拿什么东西12—33

●～来着03—34 04—19 05—7 10—21

●老11—3

●老鼻子02—6

○老公03—1 04—3 08—36 08—38

○老骨头02—7

●（大）老爷们儿01—14 08—35

○（谁是絮絮叨叨的）了01—20 01—22 02—1 02—6 02—7 02—11
 02—12 02—14 03—12 03—13 03—33 03—40
 03—45 04—8 04—15 05—12 05—20 05—23
 06—1 06—2 07—3 08—29 08—31 08—36
 10—4 10—6 10—7 10—13 10—18 10—27
 10—28 11—6 12—20 12—31 12—48 12—50
 12—56 12—63 12—69 12—77 12—78 12—82
 12—84 12—90 12—92 12—95 12—98 12—105
 12—112 12—114 13—1

○冷不丁11—2

○里头04—21 07—3 10—18

○历经考验08—31

●（咱）俩04—13 04—15 04—17 05—10 06—5 07—1 08—22 08—29
 10—1 10—4 10—10 10—11 10—26 11—2 11—5 11—6
 12—46 12—48 12—116 12—118

○连～也…10—25 13—4 13—8

○我脸没法处搁12—50

○流产13—8

○留电话01—9

○柳暗花明又一村06—10

○轮不到你们女人呢、是不是10—19

○落实05—5

M

○马上10—11 12—20

○慢慢12—84

●没03—7 03—16 03—32 03—45 03—51 06—2 10—11 10—12
10—19 12—34 12—93 12—94 12—100

●没正形11—9

●没准儿02—11

●（老太太）美的02—13

○面冷心热11—4

○面子12—48

○模样09—7

N

○拿手12—90

○哪儿跟哪儿啊03—46 06—11

●那么01—1 02—2 03—12 03—34 11—1 11—5 12—98 12—106
12—113 13—2

○难得12—31

○难看12—48

○闹08—16

○那样的日子13—6

○（美女）呢04—7

○能不能12—49

○你说～03—41 03—45 04—27 06—14 10—2 12—3 12—48

○年富力强08—11

○娘子啊…以身相许01—33

○女大十八变09—2

P

○泡菜萝卜10—2

○普天同庆08—5

Q

○瞧你10—26

○（太）巧了12—90

○穷养儿、富养女13—1

●（住着）去了02—7 02—14 03—45 08—10 11—4 12—28 12—39
12—63 12—93

○权衡12—48

○权宜之计12—50

R

●让我看看03—17 03—23 03—55 04—7 05—7 06—2 06—14 08—19
08—31 08—36 10—6 11—2 11—5 11—6 11—8 12—3
12—49 12—50 12—85 12—95 13—1

●（凭什么）人童建业同志敲门、您就不敲啊03—4

○人流08—16

○人外有人、天外有天03—45

○（不）忍心13—6

○任何13—8

○如果13—8

S

●杀人不过头点地11—6

●闪了舌头11—7

○伤害13—8

●上02—7 06—8 08—16 08—29 10—28 11—3

○少来01—21

○涉及13—10

○（我说）什么你就听什么12—50

○太生了12—82

○实实在在08—35

○实在的13—10

○实心眼02—7

○使个眼色什么12—50

○使劲儿05—10

○是吧01—2 03—45 05—12 06—14 08—37 10—11 12—56 12—69
12—92 12—93

○是不是03—34 03—45 07—3 08—17 08—18 08—19 08—26 10—1
10—2 10—10 10—11 10—13 10—18 10—19 10—26 12—90
12—99 13—2

○是块冰都被我刘易阳融化了04—8

○你是有事12—48

○手艺12—73

○熟10—1

○耍流氓04—17

●帅12—16

○索性11—6

T

○踏破铁鞋无觅处06—10

○摊牌11—5

○糖醋排骨12—90

○天大02—1

●（我的）天哪12—1

○田阿姨05—3

○听话12—3

●挺03—37 03—39 08—12 08—13 08—19

○同事12—50

○投胎08—16

○头一次08—36

○拓展训练09—1

W

○歪理03—6

○玩不下去了12—98

○万万不行的13—1

○万—02—9 08—16

X

○喜讯02—1

○瞎~10—19 12—49 12—50 12—69

○瞎话12—49 12—50

○下次12—86

●像玩闹似的03—45 12—93

○嫌弃08—16

○想过没有03—40 05—13 13—8

○潇洒着04—4

○小妇女01—19

○小妖精01—9

○心有灵犀01—2

●（住一）宿两宿的10—11

○絮絮叨叨01—19

Y

○样子01—19

○（你）要去几天呢01—5 01—16 08—3 08—5 13—8

○要不12—83 12—93

○要饭13—2

○（我）要睡觉03—53 03—55 06—14 12—119

○要是01—23 03—17 03—23 09—4 10—11 11—5 11—8 12—50

○要～了02—1 10—6 10—27

○(你)一(星期就这么)一(小箱子) 01—14 03—20 08—5 08—7
08—11 13—1

○一表人材05—4

○一不做二不休04—13

○一下12—48

○一言为定09—10 09—11

○以为03—32 03—40 13—1

○因为04—24 11—5 13—1

○隐私03—20

○尤其13—10

○游戏12—98

○育龄08—11

子供を育てられる年齢のこと。

○远见02—8

○越多越好11—3

○(不)允许10—13 12—119 13—6

○孕齡08—11

Z

●砸手里03—45

○（吃完）再走吧10—27 12—48 12—57 12—63 12—110

○咱02—6 04—13 04—15 04—17 12—10

●咱不说别的。咱就说说08—31 11—10

●咱们02—1 02—5 02—10 03—33 03—49 04—8 06—2 08—17 08—
22 09—4 10—1 10—11 10—13 10—26 11—2 11—4 11—5
11—6

○早恋03—12

○怎么了03—26 03—31 04—23 06—7 07—3 9—6 12—67

●怎么着03—5

○炸猫11—5

○站住12—98

○（快点）招呼着你12—65

○折磨08—16

●这么01—7 01—14 01—24 01—32 02—3 03—4 03—45 04—8
05—1 05—4 08—5 08—31 9—8 9—9 10—1 10—4 10—6

10—11 10—23 12—76 12—82

○这么着01—34 12—50

●（你这）整的什么事这是12—107

●这儿10—10 10—11 12—48

○知情权13—10

○执政10—19

●指02—10

●指不定什么时间呢10—6

○纸巾07—3

○只图一时之快、图一己之利13—8

○只要08—29 11—8

○只有～才～03—21 03—33

○转不过来10—3

●准02—5

○准父母的心情08—22

○准时12—3

○总04—16 13—10

○走着瞧11—10

○坐不住12—95

○作对12—102

○做回主09—8 10—19

○做人12—50

6 参考資料

- 『諸子集成新編』四川人民出版社 1998年
 『詩經』（『新釈漢文体系』明治書院 1997年）
 『礼記』（『新釈漢文大系』明治書院 1979年）
 『論語』（『新釈漢文大系』1 明治書院 1967年 第12版）
 『春秋左氏傳』（『新釈漢文体系』明治書院 1971年—1981年）
 『二十四史』中華書局 1997年
 『史記』司馬遷撰（『影印擒藻堂四庫全書買薈要』世界書局 1988年）
 『逸周書』台湾中華書局印行 1965年
 『世說新語』劉義慶（『四部叢刊』所収 嘉趣堂刊本）
 『文心雕龍』（新釈漢文体系16 明治書院 1974年—1978年）
 『全唐詩』（『四庫全書』上海古籍出版社 1987年）
 『全唐文』（『四部叢刊』上海古籍出版社 1987年）
 『奉天録』趙元一（『粵雅堂叢書二』所収 咸豐三年刻本景印）
 『大正新修大藏經』第四卷 本緣部下
 『景德伝灯録』四 入矢義高監修 財団法人禪文化研究所 1997年
 『四部叢刊初編』臺灣商務印書館 1975年
 『朱子語類』黎靖德編 中文出版社 1979年
 『滄南遺老集』叢書集成初編 商務印書館

- 『宋書』沈約撰（『二十四史』漢語大詞典出版社 2004年）
- 『蘇舜欽全集』中国古典文学叢書 上海古籍出版社 1981年2月新第1版
- 『元典章』中華書局 2011年
- 「趙盼兒風月救風塵」（『全元雜劇初編一』世界書局 中華民國74年）
- 「唐明皇秋夜梧桐雨」白撲 世界書局『全元雜劇初編二』所収 中華民國74年
- 『相国寺公孫汗衫記雜劇』張國賓『全元雜劇初編五』所収 世界書局 中華民國74年
- 「須賈諍范雎」（『全元雜劇初編七』世界書局印行 中華民國74年）
- 「散家財天賜老生兒」（『全元雜劇初編八』世界書局 中華民國74年）
- 「杜藥娘智賞金線池」（『全元雜劇初編十』世界書局 中華民國74年）
- 「縉梅香騙翰林風月」（『全元雜劇二編一』世界書局 中華民國74年）
- 「講陰陽八卦桃花女」（『全元雜劇二編三』世界書局 中華民國74年）
- 「死生交范張鷄黍」（『全元雜劇二編四』世界書局 中華民國74年）
- 「王鼎臣風雪魚樵記」（『全元雜劇三編二』世界書局 中華民國74年）
- 「包待制陳州糶米」（『全元雜劇三編四』世界書局 中華民國74年）
- 「二郎神醉射鎖魔鏡」（『全元雜劇三編五』世界書局 中華民國74年）
- 「望江亭中秋切綰旦」（『全元雜劇三編六』世界書局 中華民國74年）
- 「東堂老勸破家子弟」（『全元雜劇二編三』世界書局 中華民國74年）
- 「梁山泊黑旋風負荊」（『全元雜劇初編八』世界書局 中華民國74年）
- 『清平山堂話本』古本小說集成 上海古籍出版社 1990年
- 『容與堂本水滸傳』施耐庵 羅貫中 上海古籍出版社 1988年
- 『紀效新書』戚繼光撰（『國學基本叢書四百種』臺灣商務印書館 1968年）
- 『西遊記』吳承恩著 人民文学出版社 1980年
- 『繪因金瓶梅詞話』笑笑生著 山西人民出版社 1993年
- 「翠紅鄉兒女兩團圓雜劇」楊文奎元曲選 中華書局 1989年臧晉叔編
- 『二刻拍案驚奇』古本小說集成 上海古籍出版社 1990年
- 『東周列國志』馮夢龍改編 世界書局 1968年
- 『儒林外史』吳敬梓著 古本小說集成 上海古籍出版社 1992年
- 『奈何天』李魚（『李漁全集』第5卷所収 浙江古籍出版社 1991年）
- 『李贄全集注』社会科学文献出版社 2010年 第1刷
- 『叢書集成初編』中華書局 1991年

- 『兒女英雄傳』費莫文康著 新文豐出版社 1977年
- 『程甲本紅樓夢』曹雪芹 高鶚 書目文獻出版社 1992年
- 『官場現形記』李伯元 中国近代小説大系 江西人民文学出版社 1989年
- 『二十年目睹之怪現狀』世界書局印行 中華民國74年
- 『老殘游記』高鶚著 人民文学出版社 1979年
- 『魯迅全集』人民文学出版社 2006年
- 『老舍文集』老舍著 人民文学出版社 1995年3次印刷
- 『冰心文集』冰心 著 海峡文芸出版社 1994年
- 『曹禺文集』曹禺著 中国戲劇出版社 1988年
- 『暴風驟雨』周立波著 上海文芸出版社 1981年
- 『家』巴金 人民文学出版社 1977
- 『第四病室・寒夜』巴金著 四川人民出版社 1982年
- 『丁玲全集』丁玲 河北人民出版社 2001年
- 『閔漢卿』田漢著 田漢全集 人民文学出版社 1981年
- 『毛沢東選集』毛沢東著 人民出版社 1991年
- 『孫犁文集』孫犁著 百花文藝出版社 1992年
- 『趙樹理全集』趙樹理著 文藝出版社 2006年
- 『創業史』柳青著 中国青年出版社 1977年
- 『靳以』靳以著 人民文学出版社 1964年
- 『半农杂文』刘半农著（『中国現代文学史参考資料』所収 上海书店印行 1983年）
- 『南征北戰』沈西蒙ほか 中国電影出版社 1978年
- 『紅石口』龔成 人民文学出版社 1975年
- 『楊朔短編小説選』楊朔著 人民文学出版社 1979年
- 『蕭乾选集』蕭乾著 四川人民出版社 1984年
- 『劉宝瑞表演单口相声选』劉宝瑞口述 殷文碩整理 中国曲芸出版 1983年
- 『中国歴史文法』朋友書店 1956年
- 『中国語史通考』白帝社 1988年
- 『中国語文論集 語学編元雜劇編』汲古書院 1995年
- 『漢語方言大詞典』復旦大学京都外国語大学合作編纂 中華書局 1992年
- 『北京話詞語』高艾軍 傅民編 北京大學出版社 2001年

「北京語の文法特點」太田辰夫（『久重福三郎先生坂本一郎先生還暦記念中国研究』所収 1964年）

「現代北京語に関する調査研究—中国ドラマ「裸婚時代」第一集前半の訳注—」（『文藝論叢』第80号 2013年）

「現代北京語に関する調査研究—中国ドラマ「裸婚時代」第一集後半の訳注—」（『文藝論叢』第81号 2013年）

「現代北京語に関する調査研究—中国ドラマ「裸婚時代」第二集 Chapter02—01～02—04の訳注—」（『文藝論叢』第82号 2014年）

「現代北京語に関する調査研究—中国ドラマ「裸婚時代」第二集 Chapter02—05～02—07の訳注—」（『文藝論叢』第83号 2014年）

